愛媛大学教育学部紀要　教育科学　第35巻　45～75　1989

子どもの作話，心情，イメージに及ぼす挿絵と教示内容の影響

佐　藤　公　代
（教育心理学研究室）
（昭和63年10月11日受理）

I　問　　題

佐藤公代（1986，1988）の文章の相違（詳細型とあらすじ型）や残酷な場面を中心にした原話と改話の物語理解やイメージの比較などから，本論は，挿絵と教示内容から，子どもの作話，心情，イメージをさぐり，その影響をみようとしたものである。

II　目　　的

幼児と小学生を対象にして，教示内容の相違，挿絵の有無によって，子どもの作話，心情，イメージに及ぼす影響を調べる。

仮説は次の通りである。

① 作話量は，IV群＞III群＞II群＞I群（条件の所で詳細に記述する）の順に少ないであろう。

② 心情のとらえ方は，年齢が上がるにつれて，より高度で細かなとらえ方になり，各条件特有なものがでてくるであろう。

③ 登場者のイメージのとらえ方は，年齢の高まりと共に明確にあらわれ，各条件によって異なるであろう。

III　方　　法

1） 被験者：E幼稚園，4歳児…60名，5歳児…58名，D小学校，1年生…31名，2年生…26名，3年生…34名，4年生…35名，5年生…31名，6年生…29名，計304名

2） 期間：1987年10月31日～11月11日

3） 材料：幼児には身近な課題として「ジャムつきパンとのんちゃん」，小学生には子どもの実生活と関連して利他主義を扱ったものとして「まけうさぎ」を選ぶ。

「ジャムつきパンとフランシス」（ラッセル＝ホーバン作，リリアン＝ホーバン絵，まつおかきょうこ訳，好学社）の挿絵18枚のうち，話の流れに沿った11枚の絵を選び，それらの絵を参考にして閑千春氏が拡大して作成したもの（37cm×27cm）を使用する。絵本ではぼんやりとした中間色で着色されているのをはっきりとした原色で着色する。

心情テストは物語の各部位に対応させて作成する。

幼児用，小学生用の心情テストは付表1，2の通りである。

登場者のイメージテストは，幼児用では〝のんちゃん〟，小学生用では，Ⅰ群は〝まけうさぎ〟，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ群は〝まけうさぎ〟と〝おおかみ〟である。幼児も小学生も12の評定尺度を用い，幼児は3段階評定，小学生は5段階評定とする。

絵のイメージは，作話の手掛かりとなる絵に対して持っているイメージ測定の目的で，4つの評定尺度を用い，幼児では3段階評定，小学生では5段階評定とする。

4） 手続き：各条件に応じて絵とお話を与え，以下の課題を行う。

①作話課題…各条件に応じてお話づくりをさせる。

②心情テスト…登場者の気持ちについて質問する。

③登場者のイメージテスト…登場者のイメージについて評定させる。

5） 条件：被験者を各年齢ごとに4グループに分ける。

Ⅰ群：話の導入部分の3枚の絵だけを提示し，その絵についての話を与えて，続きを自由に作話させる群。幼児向けのインストラクションは，「前に3枚の絵があります。これからお姉さんがお話するから，絵を見ながらよく聞いていてね。」と下記のようなお話を読んでから，「お話はこのあとまで続くのだけど，どんなお話だと思いますか。のんちゃんは，どんなことをしたのでしょうか。今度はみんなが隣りにいるお姉さんにお話してあげて下さい。」

お話は次の通りである。付表3参照。

小学生用のリーフレットは次の通りである。「前に3枚の絵がありますね。それぞれの絵のお話がここに書いてあるので読んでみて下さい。」お話は次の通りである。付表4参照。

Ⅱ群…物語を表した絵（幼児…11枚，小学生…13枚）を全部提示し，題名のみを与えて自由に作話させる群。幼児用のインストラクションは「前に11枚の絵があります。この絵は『ジャムつきパンとのんちゃん』というお話です。どんなお話だと思いますか。今日は，みんなが前にある絵を見ながらお話を作って，お隣りにいるお姉さんに聞かせてあげて下さい。」

小学生用のリーフレットは次の通りである。「前に13枚の絵がありますね。これは『まけうさぎ』というお話を絵に書いたものです。どういうお話だと思いますか。絵を見ながら自由にお話を作って見て下さい。」

Ⅲ群…物語を表した絵を全部提示し，話の発端となる3枚の絵について，その絵についての話を与えて，続きを作話させる群。幼児用のインストラクションは「前に11枚の絵がありますね。今日は，お姉さんが途中までお話をしますから，そのあとの続きを，今度はみんなが作って，お隣りにいるお姉さんにお話してあげて下さい。お姉さんは3番目の絵までのお話をするから，よく聞いていてね。」お話は幼児用のⅠ群と同じ。付表3参照。

「さあ，この続きのお話を作って，隣りのお姉さんにお話してあげて下さい。」

小学生用のリーフレットは，「前に13枚の絵がありますね。はじめの3枚目までのお話がここに書いてあるので読んでみて下さい。」お話は小学生用のⅠ群と同じ。付表4参照。

Ⅳ群…物語を表した絵を全部提示し，話の大体のあらすじを与えて作話させる群。幼児用のインストラクションは「前に11枚の絵があります。これはのんちゃんというくまの女の子が，他のものは食べないで，ジャムつきパンばかり食べていたのだけれど，やっぱり，ハンバーグやサンドイッチやスパゲティなど，いろいろなものを食べた方がいいなと思うようになったというお話です。絵を1枚ずつ見ながら，このお話を詳しくお話してあげて下さい。」

小学生用のリーフレットは「前に13枚の絵がありますね。この絵はカメとの競争に負けたうさぎがおおかみとたたかうお話を絵にしたものです。絵を見ながらお話を作ってみて下さい。」

6） 結果の処理方法

a） 作話課題

作話中に発した単語の総数を求め，それを絵の枚数で割り，絵１枚あたりの単語の数を作話量の値とする。

作話した文についても同様に調べる。

b） 心情テスト

各問題の答えをいくつかの項目に分ける。

c） 登場者のイメージテスト

幼児は３段階評定，小学生は５段階評定とし，各尺度別にプロフィール表の左から順に，３段階の場合は３，２，１，５段階の場合は５，４，３，２，１と得点化し，平均値を求める。

d） 絵のイメージ

登場者のイメージテストと同様にする。

Ⅳ 結果と考察

Fig. 1 に幼児の各条件における作話量（単語）の平均値のグラフを示す。

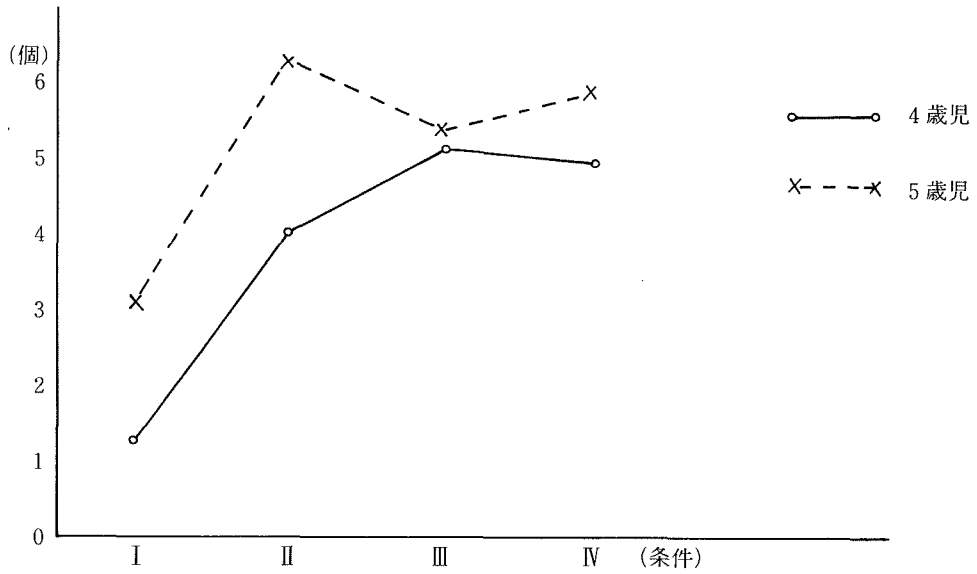


Fig. 1 各年齢，各条件における作話量（単語）の平均のグラフ

Fig. 2 に幼児の各条件における作話量（文）の平均値のグラフを示す。

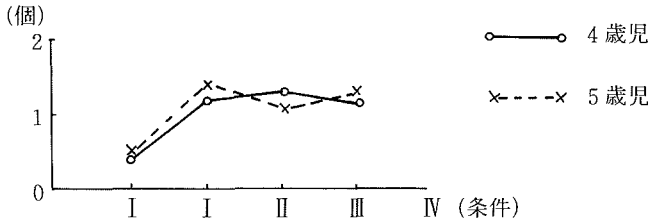


Fig. 2　各年齢，各条件における作話量（文）の平均のグラフ

Fig. 3 に小学生の各条件における作話量（文）の平均値のグラフを示す。

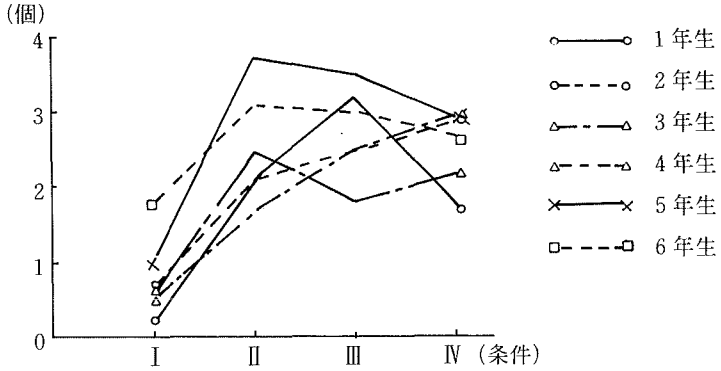
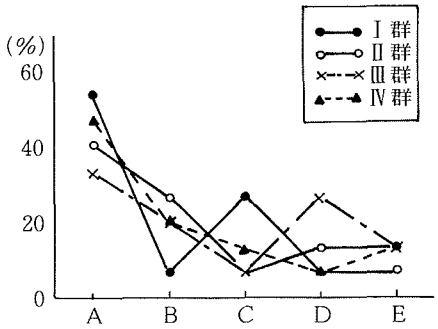


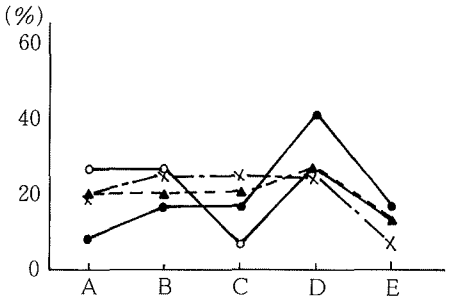
Fig. 3　各年齢，各条件における作話量（文）の平均のグラフ

Fig. 1, 2, 3 から作話課題について，作話量に関しては，絵という手助けのないⅠ群は，他の群より少なくなっており，作話における絵の働きの重要さを示しているが，II，III，IV群の順位づけは仮説①を支持していない。幼児においては単語では 4 歳児でII＜IV＜III，5 歳児でIII＜IV＜IIの順に多くなり，文では 4 歳児でIV＜II＜III，5 歳児でIII＜IV＜IIの順に多くなっている。幼児においては各群間に有意差は認められないが，小学生においてII群（1％水準で），III群（5％水準で），IV群（10％水準で）で有意差が認められる。Fig. 1 と 2 とから，Ⅰ群とIII群との比較では，4，5 歳児ともIII群の方が多く，共に 1％水準で有意差が見られる。このことは教示された話の続きを作話する場合，自分の頭の中だけで想像して作話するよりもお話を表した絵が提示されていて，その絵をよりどころにして想像して作話する方が子どもにとって容易であることを示している。

Fig. 4①～②に幼児の心情テスト①の各項目における割合のグラフを示す。

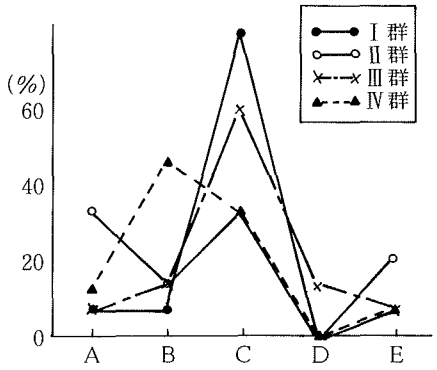


〈Fig. 4—①〉　心情テスト①の各項目における割合—4歳児—

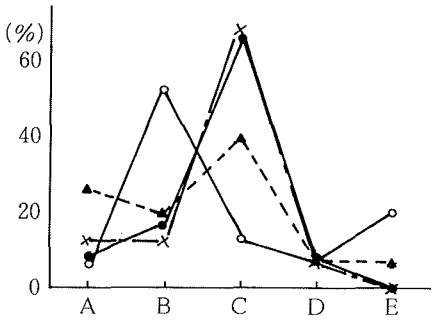


〈Fig. 4—②〉　—5歳児—

Fig. 5①～②に幼児の心情テスト②の各項目における割合のグラフを示す。

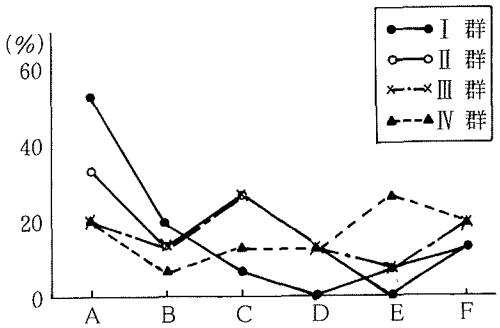


〈Fig. 5—①〉　心情テスト②の各項目における割合—4歳児—

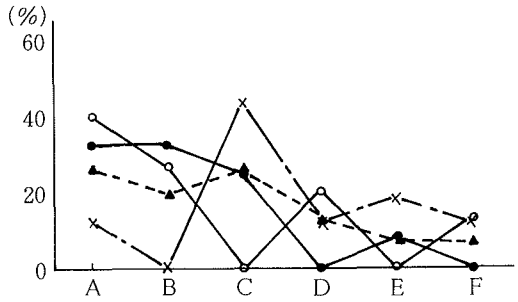


〈Fig. 5—②〉　—5歳児—

Fig. 6①～②に幼児の心情テスト③の各項目における割合のグラフを示す。

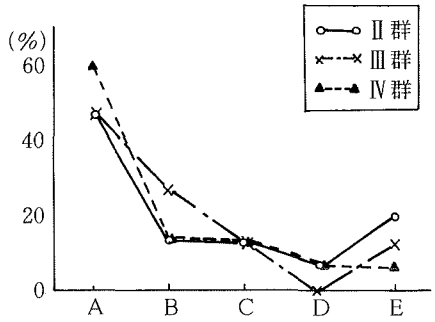


〈Fig. 6—①〉　心情テスト③の各項目における割合—4歳児—

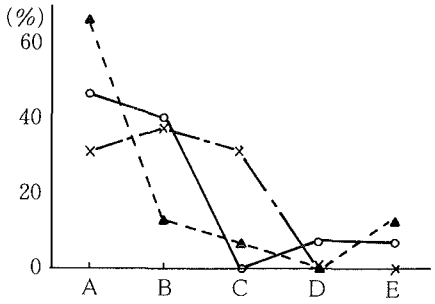


〈Fig. 6—②〉　—5歳児—

Fig. 7 ①～②に幼児の心情テスト④の各項目における割合のグラフを示す。

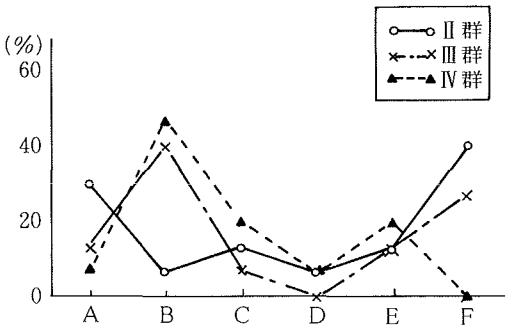


〈Fig. 7—①〉 心情テスト④の各項目における割合—4歳児—

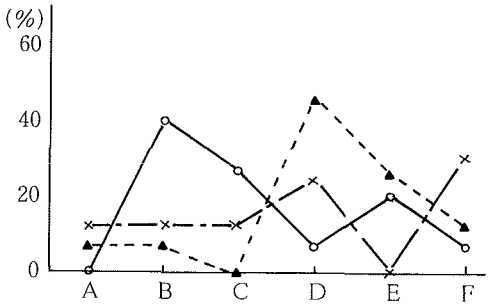


〈Fig. 7—②〉 —5歳児—

Fig. 8 ①～②に幼児の心情テスト⑤の各項目における割合のグラフを示す。

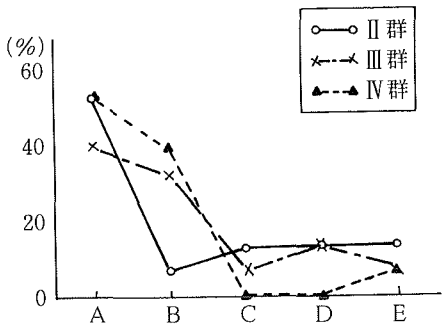


〈Fig. 8—①〉 心情テスト⑤の各項目における割合—4歳児—

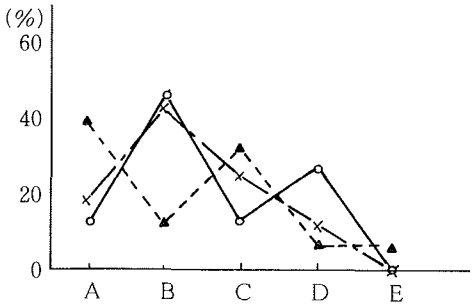


〈Fig. 8—②〉 —5歳児—

Fig. 9 ①～②に幼児の心情テスト⑥の各項目における割合のグラフを示す。



〈Fig. 9—①〉 心情テスト⑥の各項目における割合—4歳児—



〈Fig. 9—②〉 —5歳児—

Fig. 4 ①～②から Fig. 9 ①～②までのグラフの中で，心情テスト②に 4，5 歳児でそれぞれ 5 %水準で，心情テスト④に 5 歳児で10%水準で，心情テスト⑤に 5 歳児で 5 %水準で有意差がある。

次に各問題ごとに分析してみる。

①「朝みんなが卵を食べている時に，ジャムつきパンを食べているのんちゃんの気持ち」は 4 歳児で「うれしい」と好む心情をとらえており，5 歳児で「いやだ」と嫌う心情をとらえている。

②「机の上に卵が置いてあるのを見た時ののんちゃんの気持ち」は，条件別では，4，5 歳児とも 5 %水準で有意差が認められる。4，5 歳児の I，III群で「いやだ」という気持ちがあらわれているのは，のんちゃんが卵はきらいと歌う場面があって，この場面に注目して聞いていたために印象に残ったのかもしれない。4 歳児の II，IV群では「うれしい」と「いやだ」あるいは「おいしそう」と「いやだ」というように，相反する 2 つの心情ととらえている。5 歳児の II 群は「おいしそう」，IV群では「うれしい」と「いやだ」に分かれている。

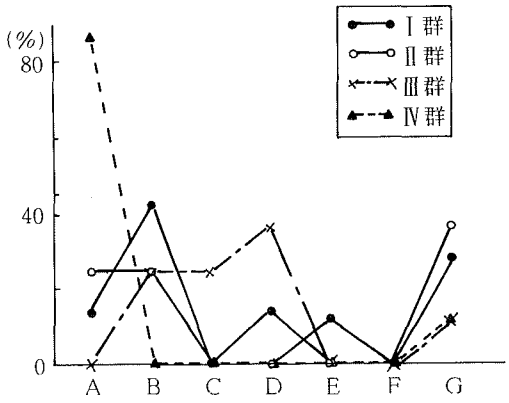
③「本やお弁当箱やなわとびのなわを持って出かける時の，のんちゃんの気持ち」は，条件間に有意差は見られない。そして，4 歳児は「友達と遊ぶこと」や「お弁当のこと」を考えているととらえ，5 歳児でも「友達と遊ぶこと」「学校のこと」「お弁当のこと」ととらえている。

④「ジャムつきパンばかり食べていたのんちゃんの気持ち」は条件別では，5 歳児で10%水準で有意差がみられ，II 群では「好きだから」「おいしいから」ととらえ，IV群では「好きだから」，III群ではそれらに加えて「卵がきらいだから」というとらえ方をしている。4 歳児では単純に「好きだから」ととらえている者が多い。

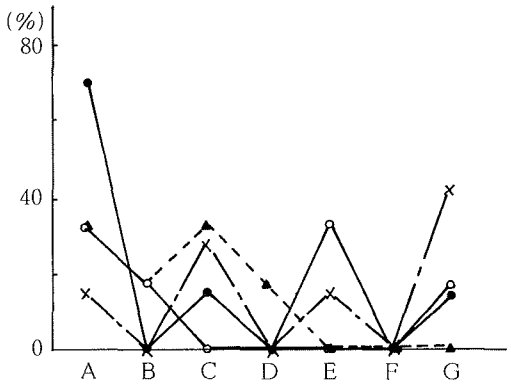
⑤「ジャムパンを見て泣き出したのんちゃんの気持ち」は，条件別では 5 歳児で 5 %水準で有意差が見られ，II，III群が「ジャムがついていないから」とか「おなかが痛いから」ととらえているのに対し，IV群では「他のものも食べたいから」ととらえているのは，IV群の教示の中で「ジャムつきパンばかり食べていたのんちゃんもやっぱりいろいろなものを食べる方がいいなと思うようになった」という影響があったのかもしれない。4 歳児では絵から単純に「ジャムがついていないから」ととらえ，その他は「お母さんがジャムをぬってくれないから」ととらえている。

⑥「スパゲティを食べた時ののんちゃんの気持ち」は，各年齢で条件間に有意差はみられないが，教示内容よりも絵から気持ちをとらえている。4 歳児では「うれしかった」「おいしかった」ととらえ，5 歳児ではそれらに加えて「よかった」といずれも喜びの心情をとらえている。

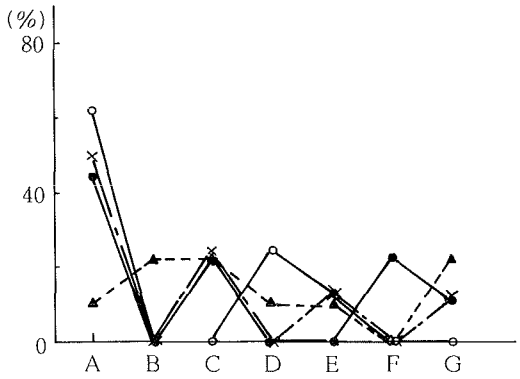
Fig. 10 ①～⑥に小学生の心情テスト①の各項目における割合のグラフを示す。



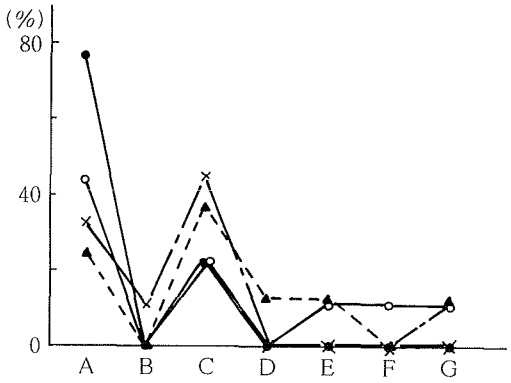
〈Fig. 10—①〉 心情テスト①の各項目における割合—1年生—



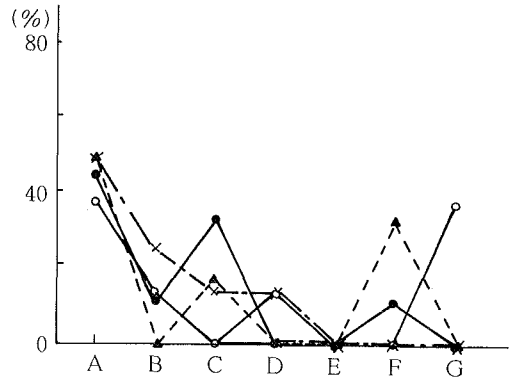
〈Fig. 10—②〉 —2年生—



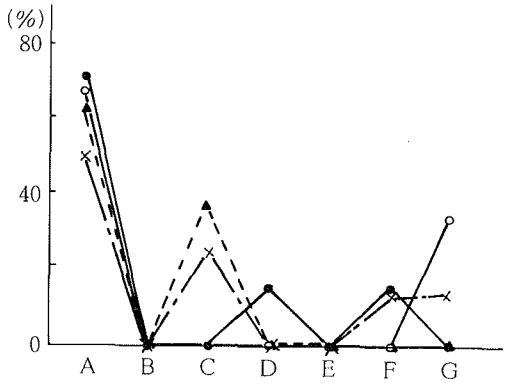
〈Fig. 10—③〉 —3年生—



〈Fig. 10—④〉 —4年生—

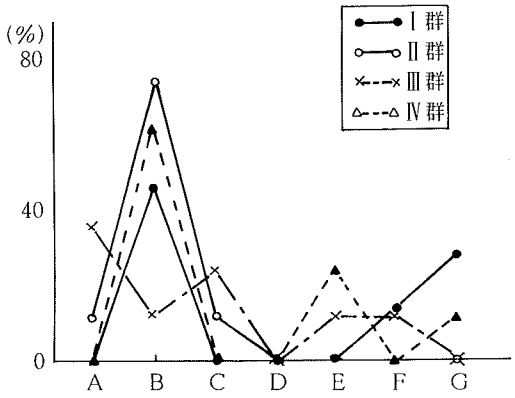


〈Fig. 10—⑤〉 —5年生—

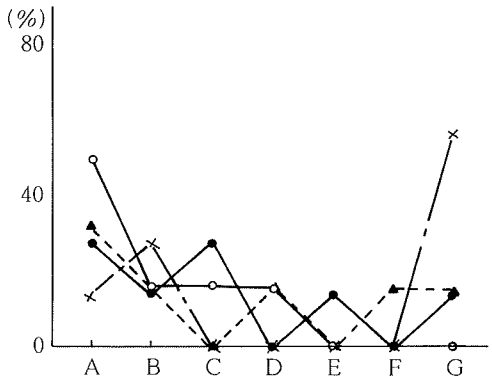


〈Fig. 10—⑥〉 —6年生—

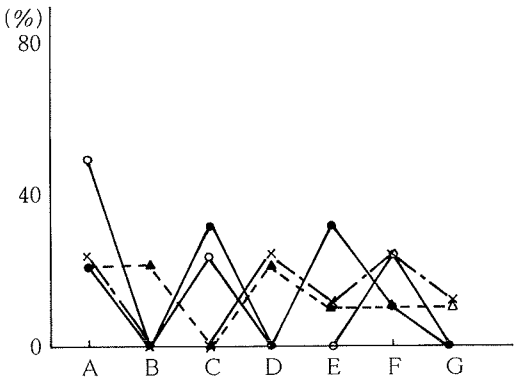
Fig. 11 ①～⑥に小学生の心情テスト②の各項目における割合のグラフを示す。



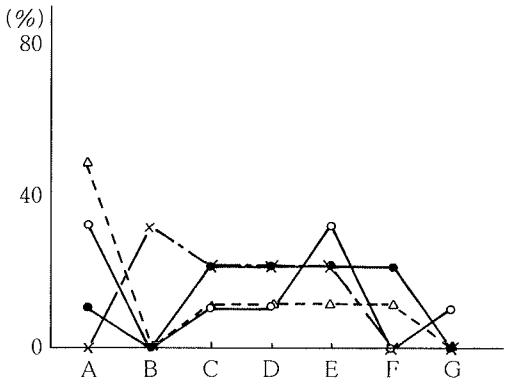
〈Fig. 11—①〉　心情テスト②の各項目における割合—1年生—



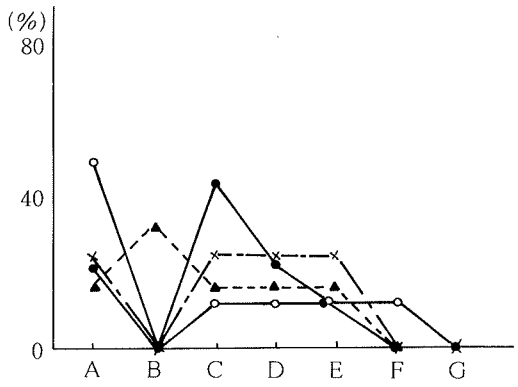
〈Fig. 11—②〉　—2年生—



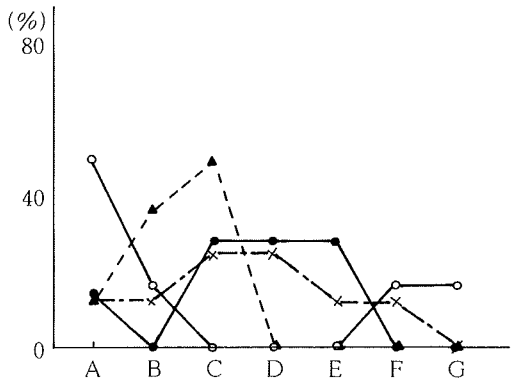
〈Fig. 11—③〉　—3年生—



〈Fig. 11—④〉　—4年生—

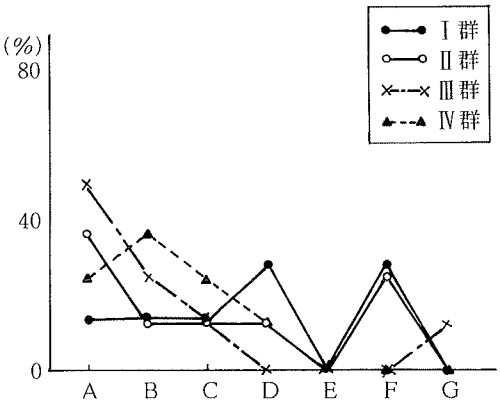


〈Fig. 11—⑤〉　—5年生—

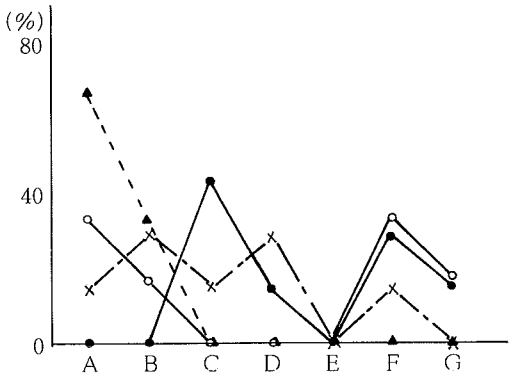


〈Fig. 11—⑥〉　—6年生—

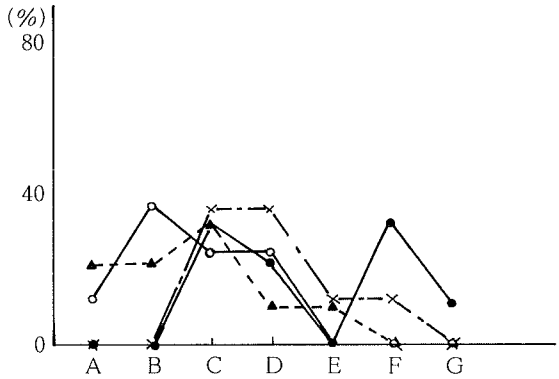
Fig. 12 ①～⑥に小学生の心情テスト③の各項目における割合のグラフを示す。



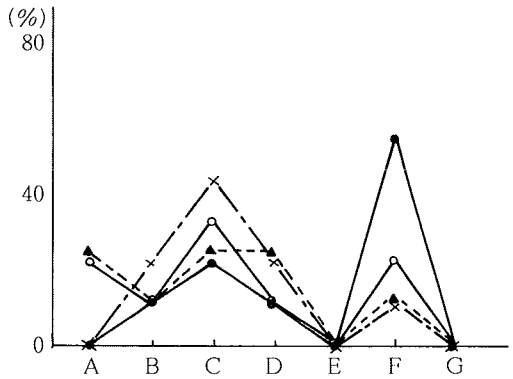
〈Fig. 12—①〉 心情テスト③の各項目における割合—1年生—



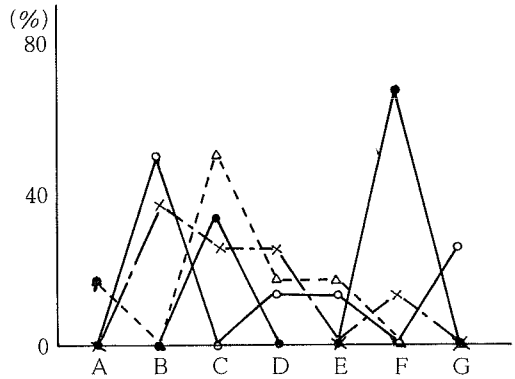
〈Fig. 12—②〉 —2年生—



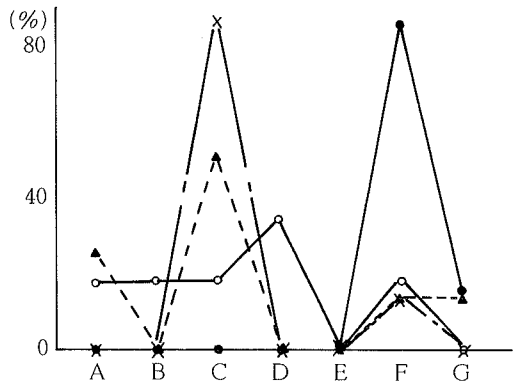
〈Fig. 12—③〉 —3年生—



〈Fig. 12—④〉 —4年生—

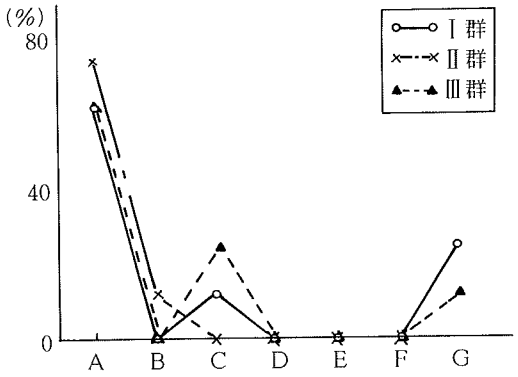


〈Fig. 12—⑤〉 —5年生—

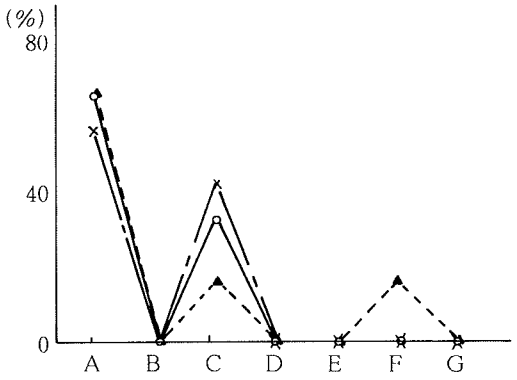


〈Fig. 12—⑥〉 —6年生—

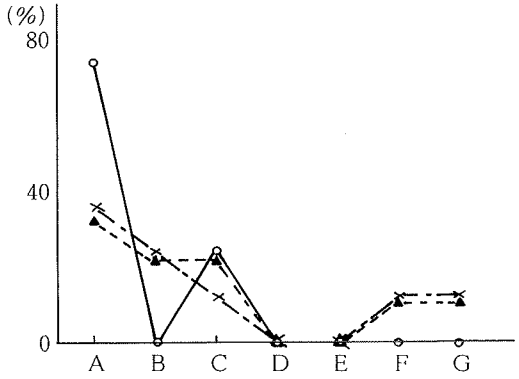
Fig. 13 ①～⑥に小学生の心情テスト④の各項目における割合のグラフを示す。



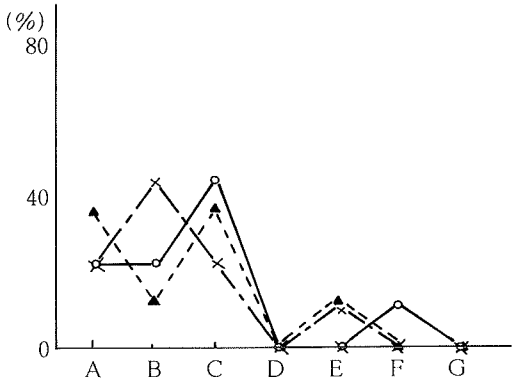
〈Fig. 13—①〉　心情テスト④の各項目における割合—1年生—



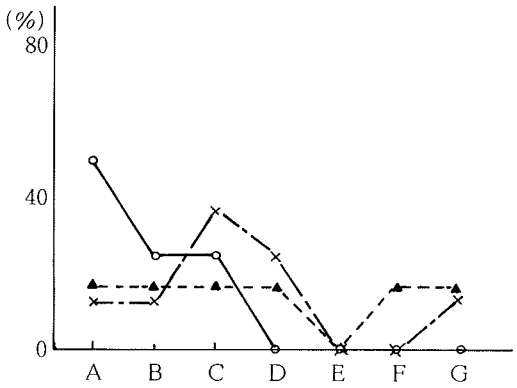
〈Fig. 13—②〉　—2年生—



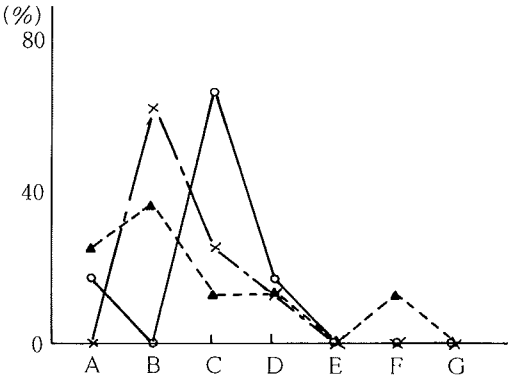
〈Fig. 13—③〉　—3年生—



〈Fig. 13—④〉　—4年生—

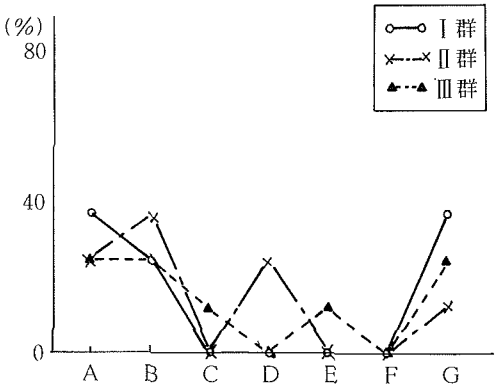


〈Fig. 13—⑤〉　—5年生—

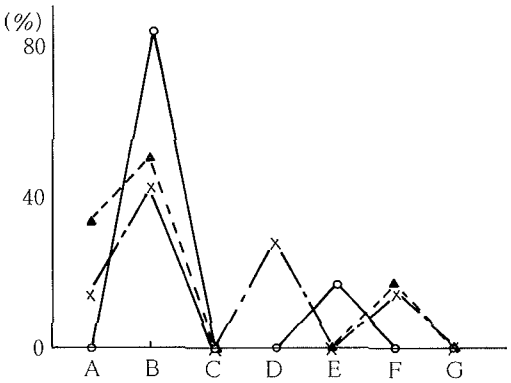


〈Fig. 13—⑥〉　—6年生—

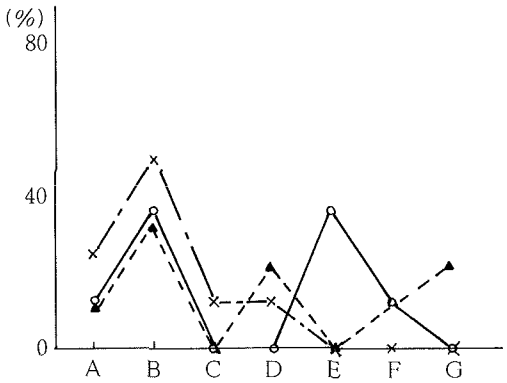
Fig. 14 ①～⑥に小学生の心情テスト⑤の各項目における割合のグラフを示す。



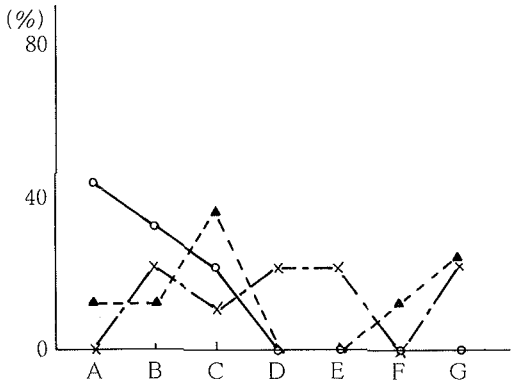
〈Fig. 14—①〉 心情テスト⑤の各項目における割合—1年生—



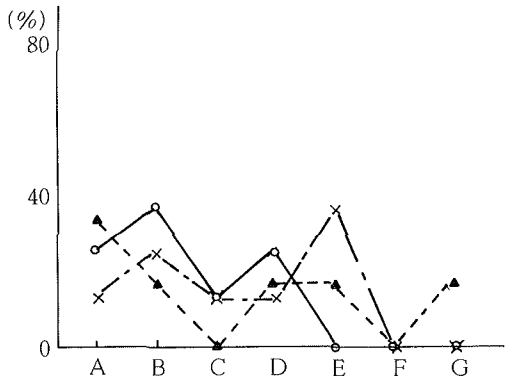
〈Fig. 14—②〉 —2年生—



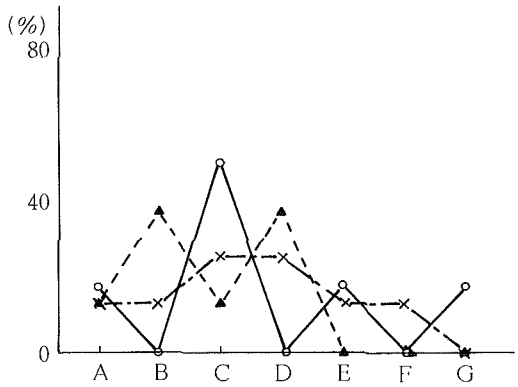
〈Fig. 14—③〉 —3年生—



〈Fig. 14—④〉 —4年生—

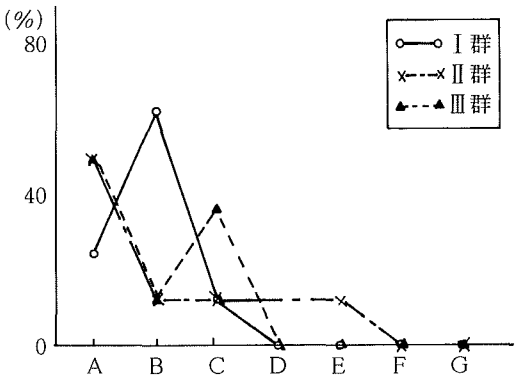


〈Fig. 14—⑤〉 —5年生—

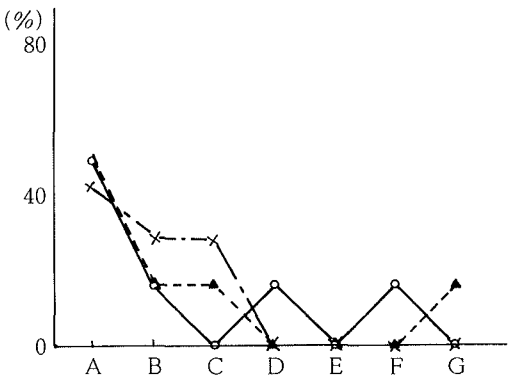


〈Fig. 14—⑥〉 —6年生—

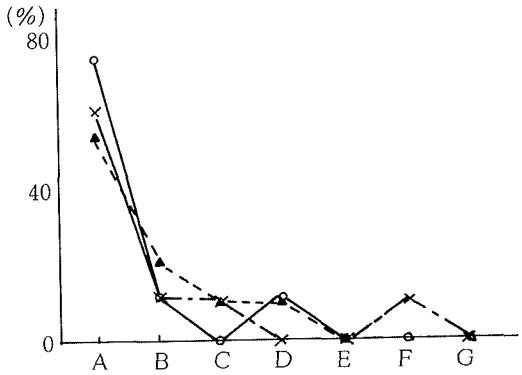
Fig. 15 ①～⑥に小学生の心情テスト⑥の各項目における割合のグラフを示す。



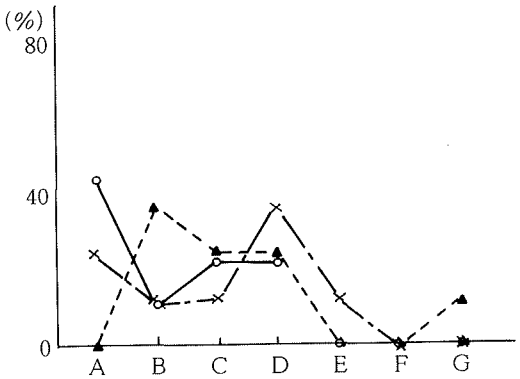
〈Fig. 15—①〉　心情テスト⑥の各項目における割合—1年生—



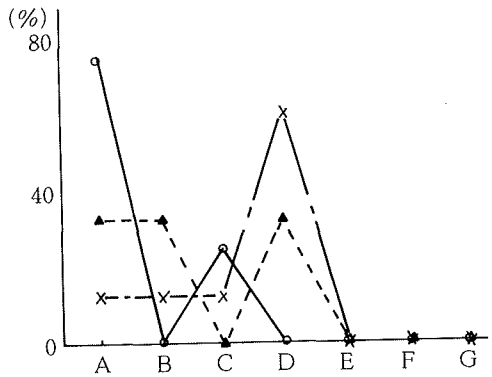
〈Fig. 15—②〉　—2年生—



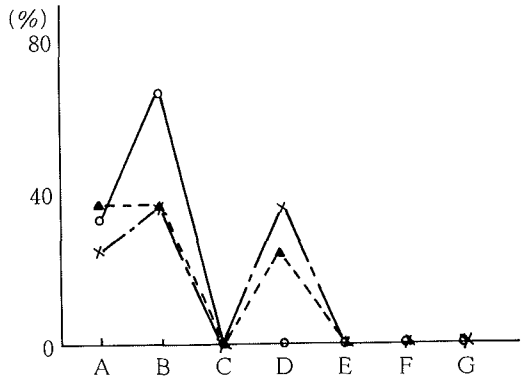
〈Fig. 15—③〉　—3年生—



〈Fig. 15—④〉　—4年生—

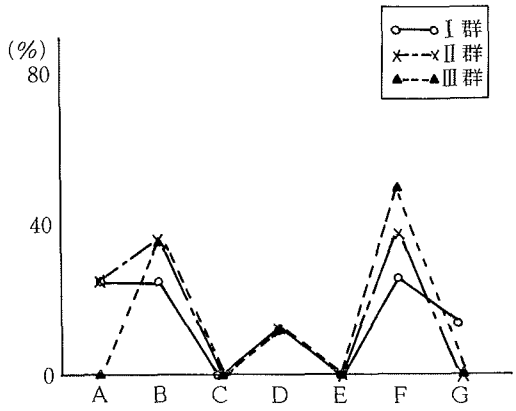


〈Fig. 15—⑤〉　—5年生—

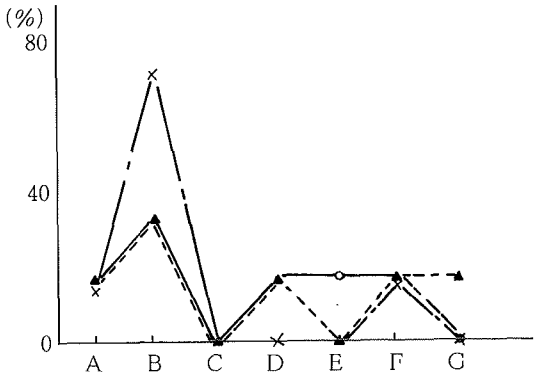


〈Fig. 15—⑥〉　—6年生—

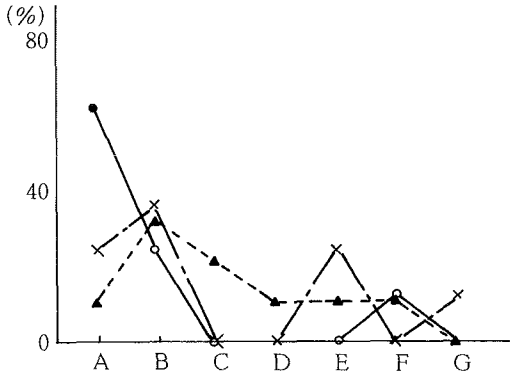
Fig. 16 ①～⑥に小学生の心情テスト⑦の各項目における割合のグラフを示す。



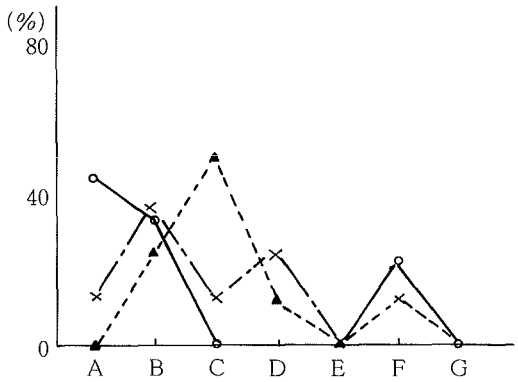
〈Fig. 16—①〉 心情テスト⑦の各項目における割合—1年生—



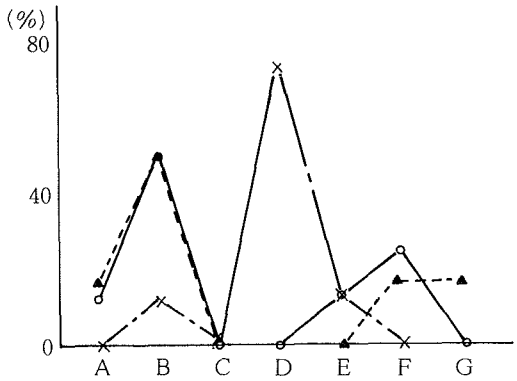
〈Fig. 16—②〉 —2年生—



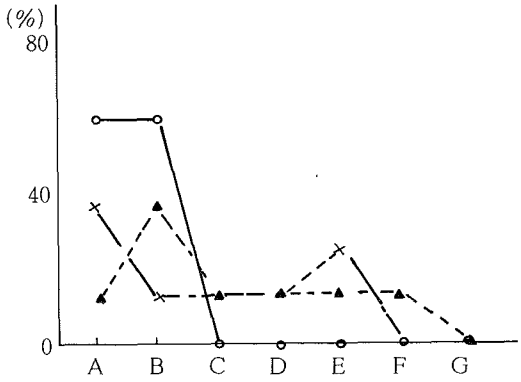
〈Fig. 16—③〉 —3年生—



〈Fig. 16—④〉 —4年生—



〈Fig. 16—⑤〉 —5年生—



〈Fig. 16—⑥〉 —6年生—

Fig. 10①～⑥からFig. 16①～⑥までのグラフの中で心情テスト①に小学1年生で5％水準で，心情テスト②に小学1年生で10％水準で，心情テスト③に小学5，6年生で1％水準で，心情テスト⑤に小学4年生で10％水準で，心情テスト⑥に小学5年生で5％水準で，心情テスト⑦に小学5年生で5％水準で有意差がある。

さらに，各問題ごとに分析してみる。

①「小山の上でばんざいをしているかめを見た時のうさぎの気持ち」は，1年生で5％水準で有意差が見られ，I群では「情けないな」，II群では「くやしい」気持ちと「情けない」気持ちに分かれ，III群では「情けない」気持ちと「いねむりをしなければよかった」という後悔の気持ちと「今度はがんばるぞ」という前向きの気持ちに分かれ，IV群では「くやしい」気持ちととらえており，それぞれに気持ちのとらえ方が異なっている。III群にのみ見られる「いねむりをしなければよかった」という後悔の気持ちは，III群でかめに負けるという話が与えられ，その後，仲間外れにされることが強く印象づけられたためではないかと思われる。2年生からは，「くやしい」気持ちを強くとらえるようになっており，4年生では「くやしい」気持ちと後悔の気持ちに集中，6年生ではこの傾向が顕著に表れている。「その他，無答」が少なくなっていることからも，年齢が上がるほど心情を明確にとらえ易かったと思われる。

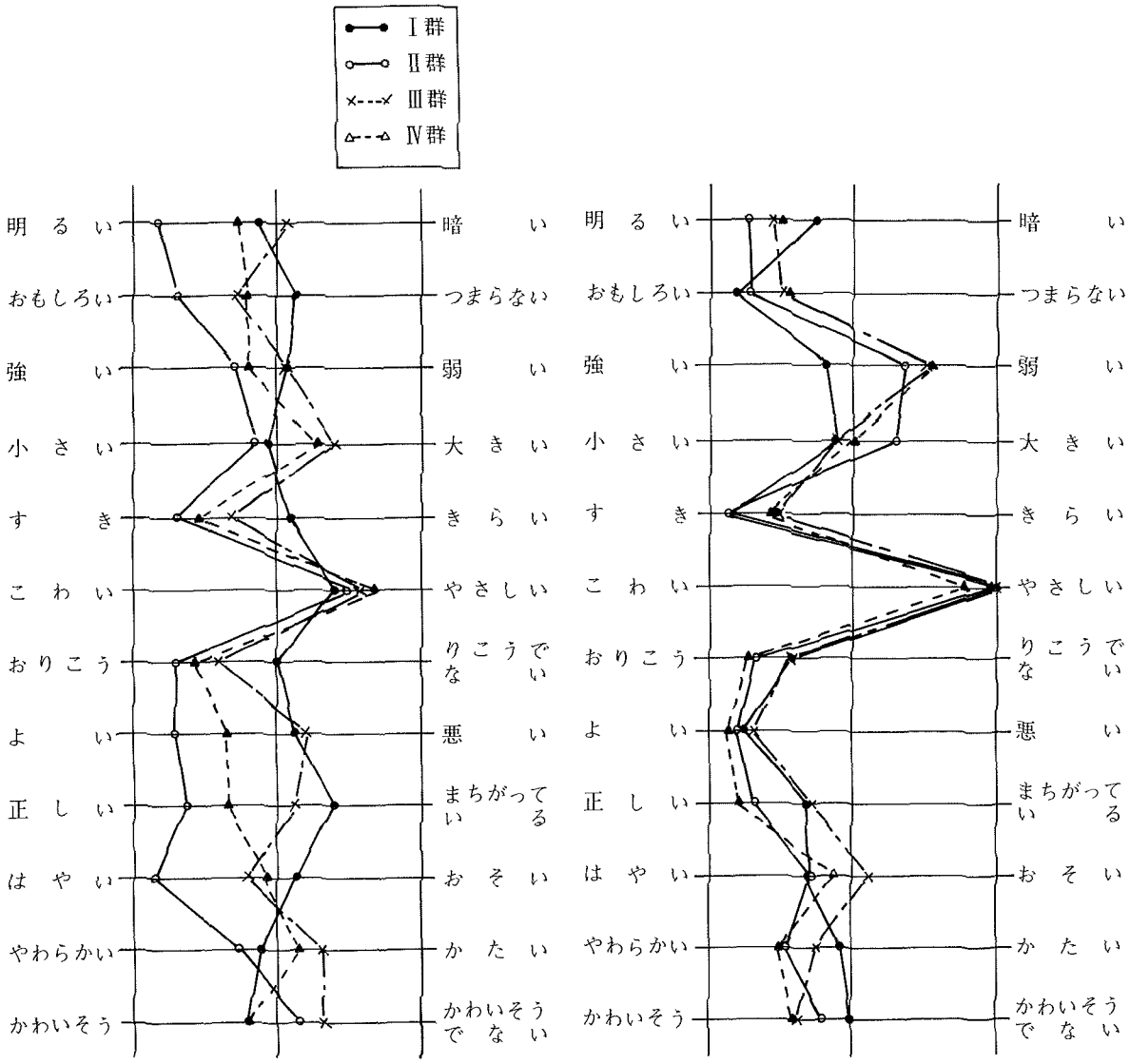
②「さるやしかやくまにばかにされた時のうさぎの気持ち」は1年生で10％水準で有意差が見られ，I，II，IV群では「いやだな，かなしい」III群では「くやしい」気持ちと「いねむりをしなければよかった」という後悔の気持ちに分かれている。III群は話の発端を与えられたことからの後悔の気持ちが見られる。1年生に見られた「いやだな，かなしい」という弱い気持ちが2年生からは少なくなっており，「くやしい」気持ちや後悔の気持ちととらえることが多い。3年生からは「今度は絶対に勝ってやる」とか「バカにするな」といった強気な面をとらえるようになっている。

③「うさぎ村に帰っていく時のうさぎの気持ち」は，5，6年生に1％水準で有意差が見られる。5年生でI群は競争に負けて「くやしい」気持ち，II群では村に帰れて「よかった」III群で「よかった」と思う気持ちと「みんなにバカにされるだろうからいやだ」という気持ちと「みんなにすまない」気持ちに分かれており，IV群では「いやだ」という気持ち，I群では，この後のうさぎ村の様子の絵が提示されていないために，3枚の絵に頼りがちなため，他の群にはあまり見られない「くやしい」がでてきたものと思われる。6年生でI群では5年生と同じように「くやしい」II群では気持ちのとらえ方が分かれており，III群で「いやだ」という無持ちが強く見られる。これは教示された話の中にさるやしかにバカにされた場面がはっきりと示されているために，それに呼応して，村に帰ってもバカにされるだろうととらえたものである。1，2年生では「うれしい」とか「よかった」ととらえる者が多く，3，4年生ではとらえ方が分かれており，「いやだ」「すまない」という気持ちも多いことから，年齢の高まりと共に，競走に負けたという事実を踏まえて，うさぎの気持ちを考えるようになっている。

④「おおかみの所へ行こうとするうさぎの気持ち」は各年齢とも条件間に有意差は見られないのは，この場面が条件による教示内容の違いとは関係がなかったためと思われる。1，2，3年生で「こわくていやだ」という弱い気持ちと「やっつけてやる」という強い気持ちにほぼ二分され，4年生では，「がんばるぞ」という気持ちが加わり，5，6年生では，弱い気持ちよりも強い気持ちととらえ，「やっつけてみんなの仲間に入れてもらおう」というように，おおかみの所へ行く理由も合わせて心情を考えている。

⑤「うさぎがやって来た時のおおかみの気持ち」は，4年生で10%水準で有意差が見られ，II，IV群で「うまそうだ」「食べてやる」ととらえ，III群では「何しに来たんだ」といぶかしがる気持ちや「来たな，やっつけてやる」と意気揚々としているようにとらえている。

⑥「おおかみをやっつけた時のうさぎの気持ち」は，5年生で5%水準で有意差が見られる。II群で「やったあ，やっつけたぞ」という喜びの心情，III群で「これで仲間に入れてもらえる」という今後に対する安心の気持ちをとらえ，IV群ではその両方のとらえ方をしている。1，2，3年生では「やっつけたぞ」「うれしい」という単なる喜びの気持ち，4年生から「みんなの仲間に入れてもらえる」という一歩進んだ喜びをとらえている。



〈Fig. 17—①〉 "のんちゃん"のイメージ—4歳児—

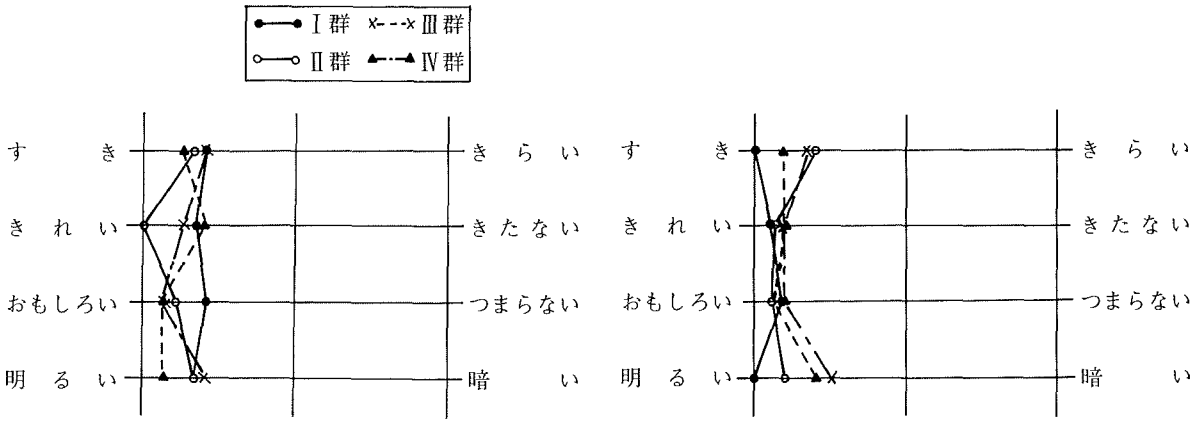
〈Fig. 17—②〉 —5歳児—

⑦「山を落ちていくおおかみの気持ち」は，５年生で５％水準で有意差がみられ，II，IV群で「くやしい」気持ちととらえており，III群では「おれが負けるなんて…」と信じられない気持ちにとらえている。１年生で「くらしい」気持ちと「もうだめだ」というあきらめの気持ちが特に強く，２年生で「くやしい」，３年生，６年生で助けを求める弱い気持ちと「くやしい」気持ちがとらえられている。

以上から，心情テストでは条件間にいくつかの有意差が見られることから，各条件ごとの教示内容の影響を受けており，年齢の高まりと共に教示内容や話の流れなどを踏まえて，総合的に判断して心情をとらえることができるようになる。よって，仮説②は支持される。

Fig. 17 ①～②に４，５歳児の各条件における〝のんちゃん〟のイメージのプロフィールを示す。

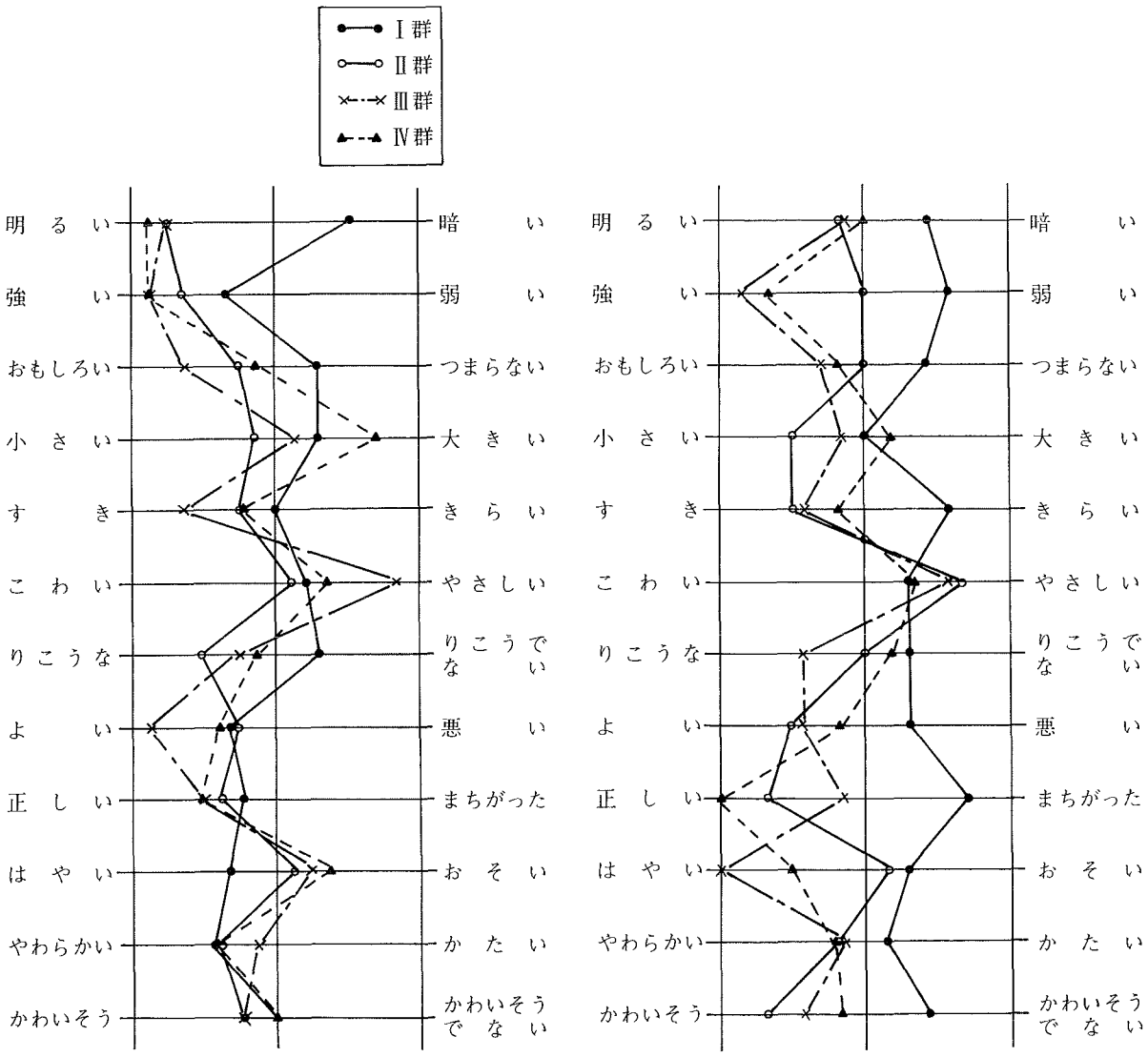
Fig. 18 ①～②に４，５歳児の各条件における〝絵のイメージ〟のプロフィールを示す。



〈Fig. 18—①〉　絵のイメージ—４歳児—

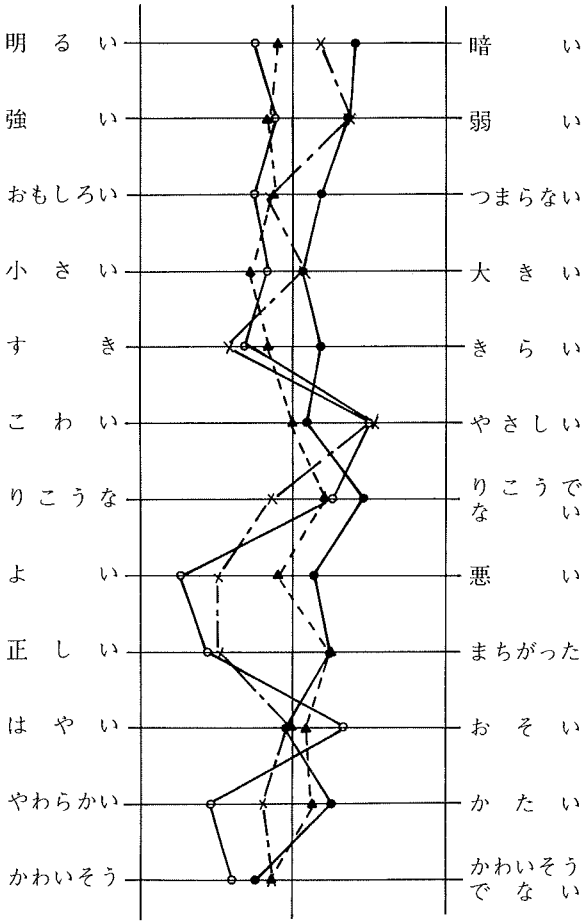
〈Fig. 18—②〉　—５歳児—

Fig. 19 ①～⑥に小学生の各条件における〝まけうさぎ〟のイメージのプロフィールを示す。

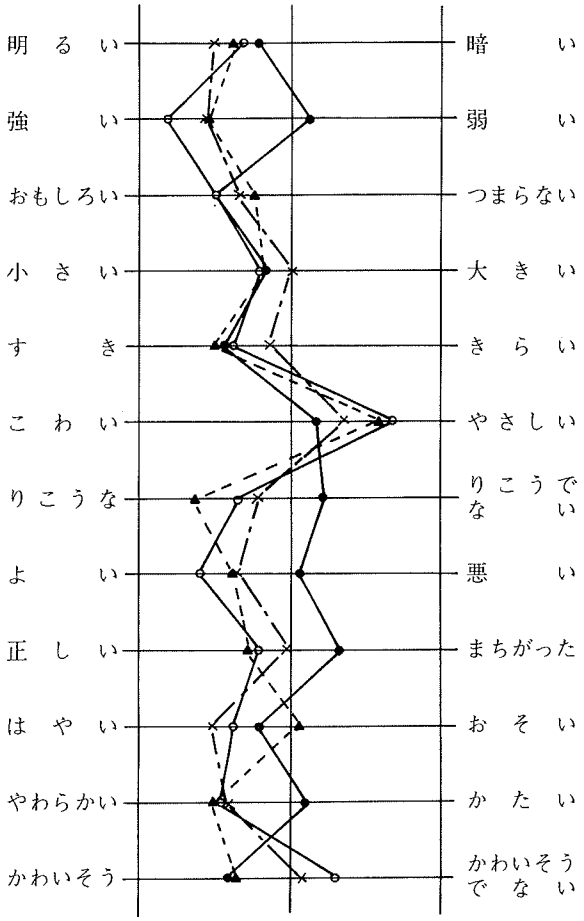


〈Fig. 19—①〉 〝まけうさぎ〟のイメージ—1年生—

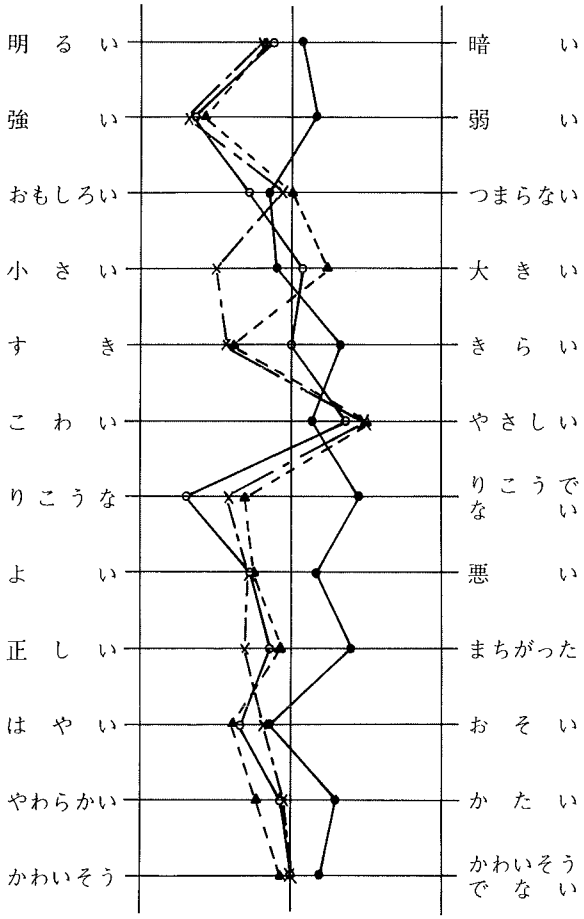
〈Fig. 19—②〉 —2年生—



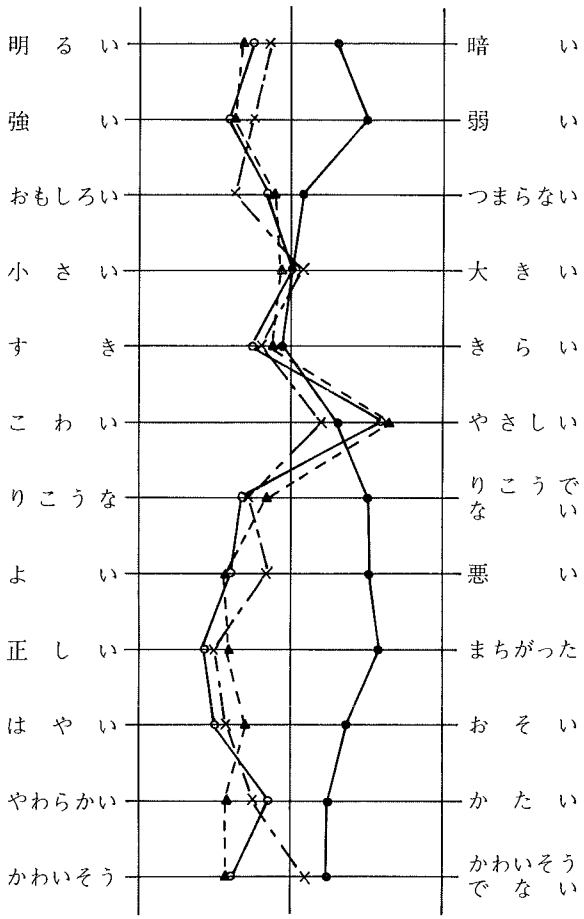
〈Fig. 19—③〉　—3年生—



〈Fig. 19—④〉　—4年生—

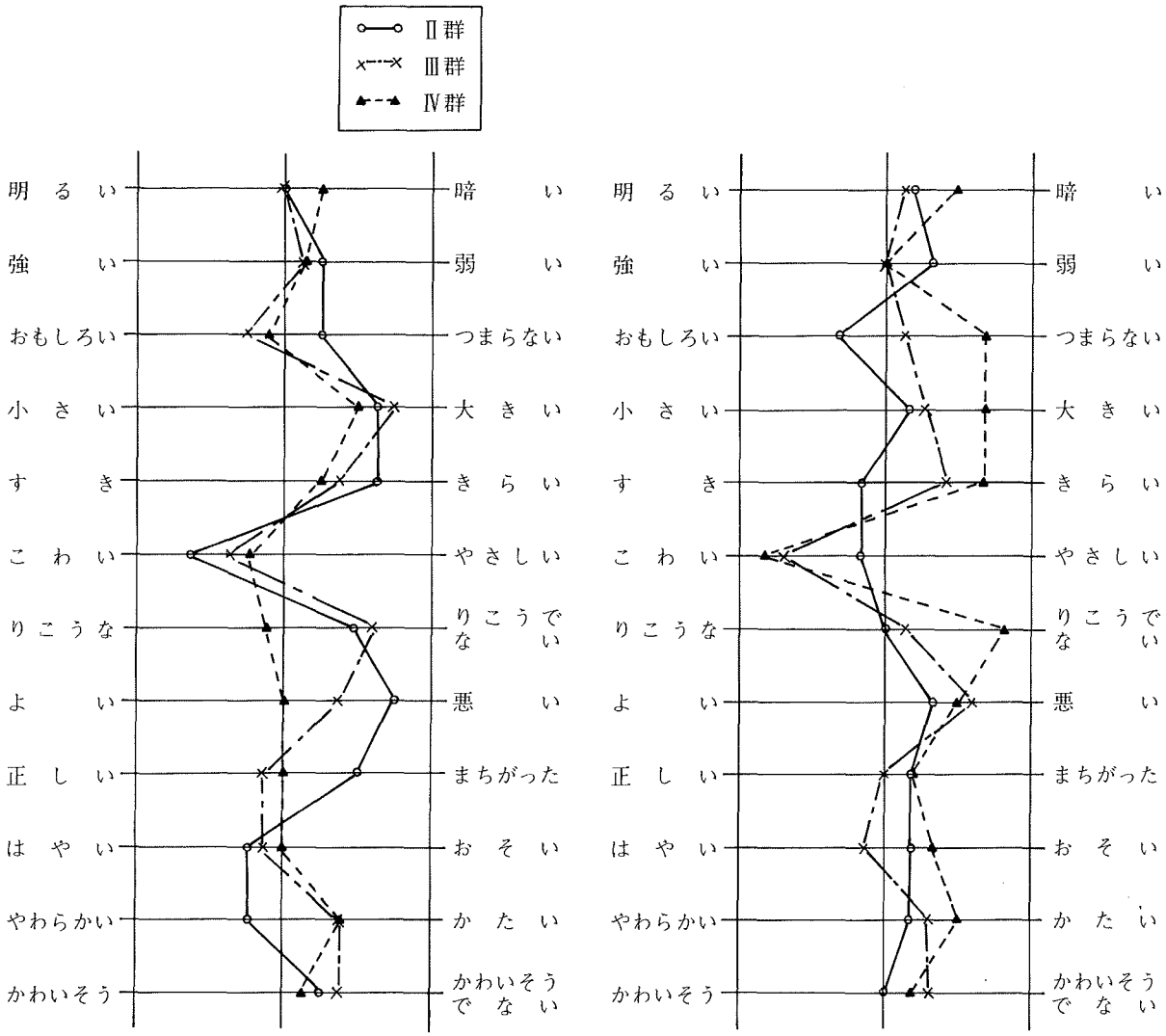


〈Fig. 19—⑤〉 —5年生—



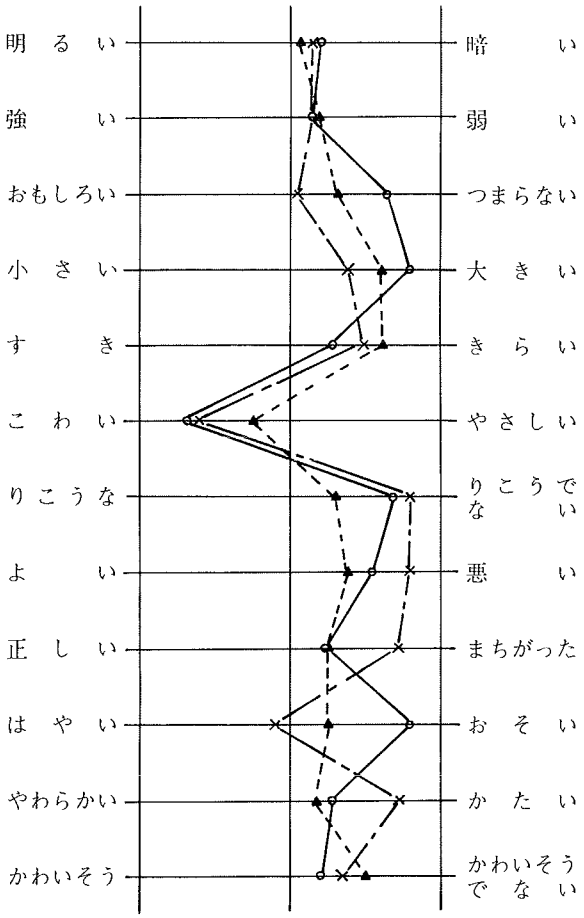
〈Fig. 19—⑥〉 —6年生—

Fig. 20①～⑥に小学生の各条件における〝おおかみ〟のイメージのプロフィールを示す。

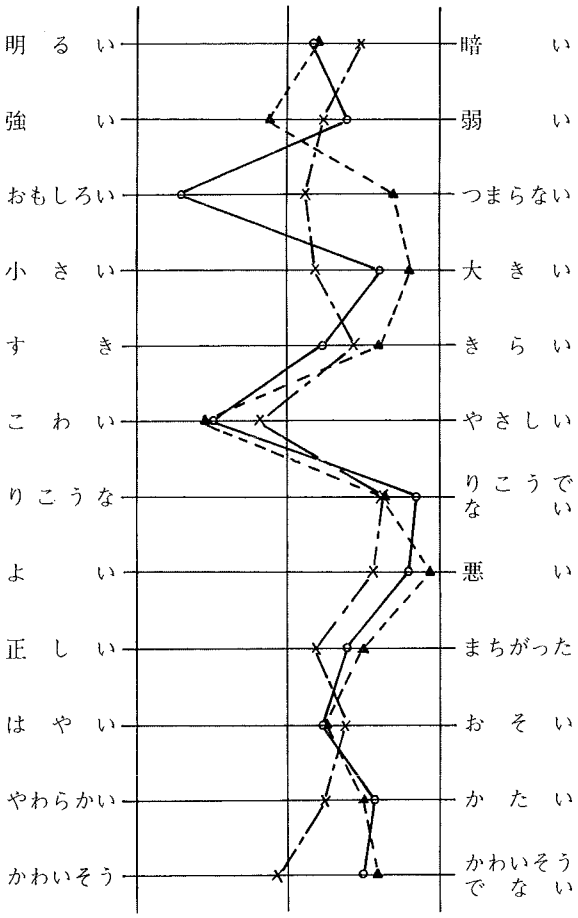


〈Fig. 20—①〉 〝おおかみ〟のイメージ—1年生—

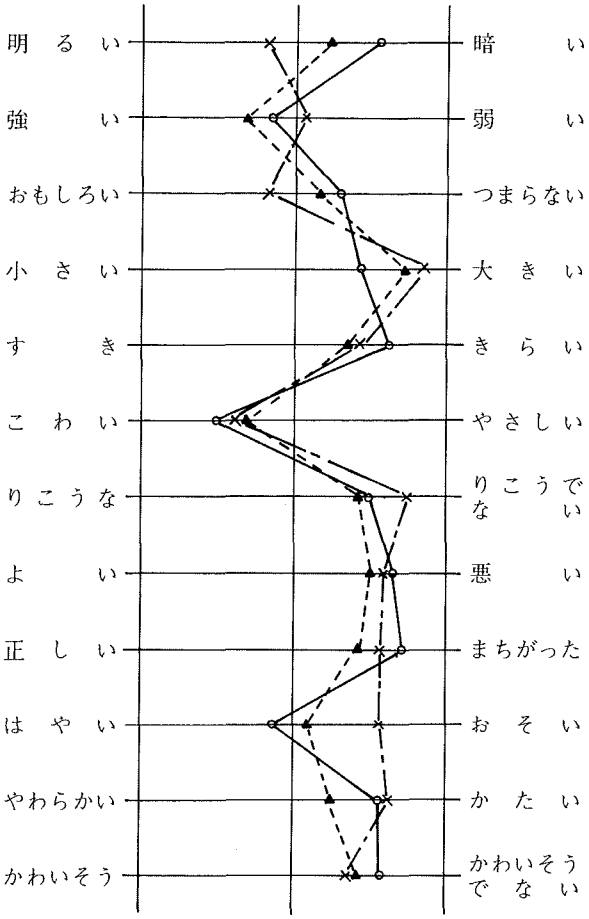
〈Fig. 20—②〉 —2年生—



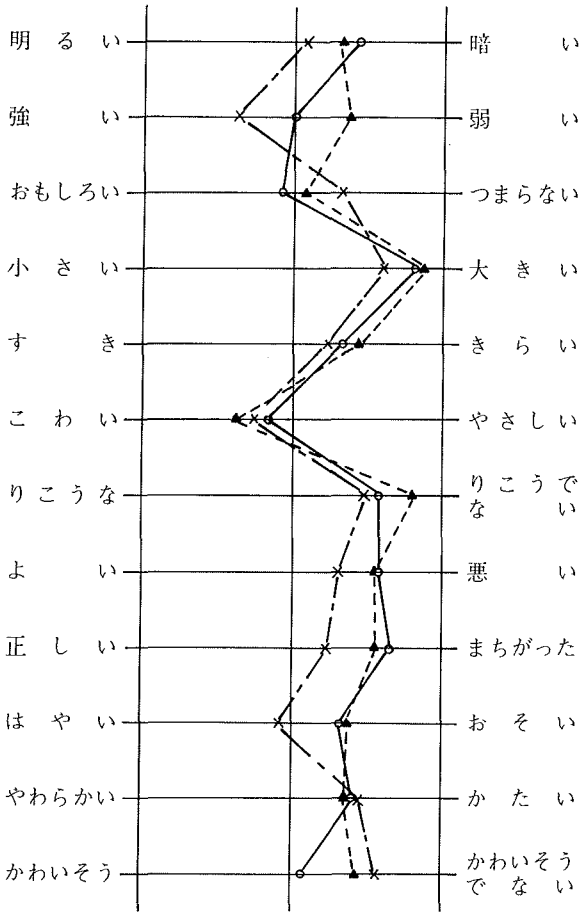
〈Fig. 20—③〉 —3年生—



〈Fig. 20—④〉 —4年生—

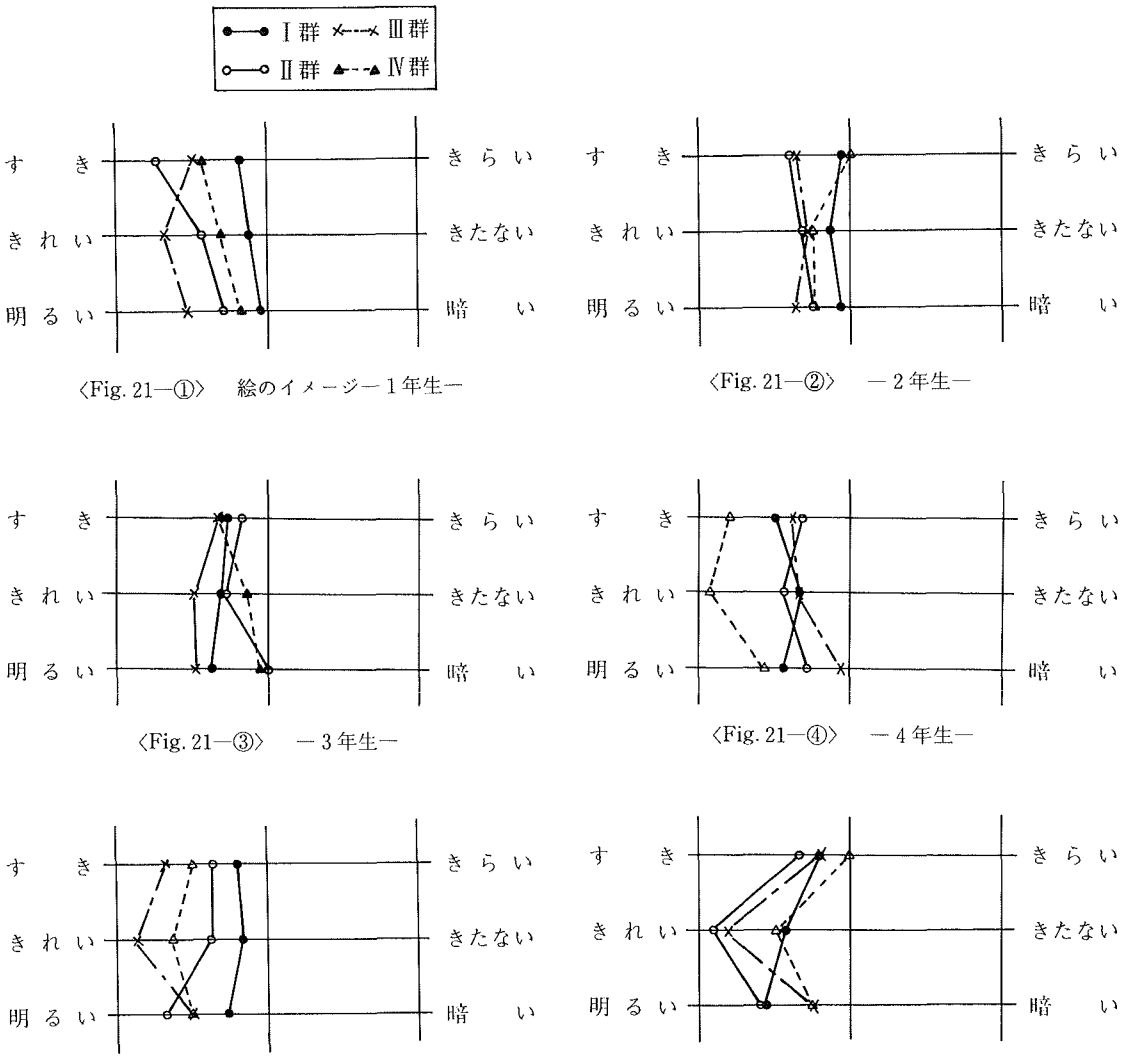


〈Fig. 20—⑤〉 —5年生—



〈Fig. 20—⑥〉 —6年生—

Fig. 21 ①～⑥に小学生の各条件における〝絵のイメージ〟のプロフィールを示す。



〈Fig. 21—①〉 絵のイメージ—1年生—

〈Fig. 21—②〉 —2年生—

〈Fig. 21—③〉 —3年生—

〈Fig. 21—④〉 —4年生—

〈Fig. 21—⑤〉 —5年生—

〈Fig. 21—⑥〉 —6年生—

Fig. 17 ①～②から「明るい—暗い」で4歳では10%水準で，「強い—弱い」で5歳では10%水準で，「よい—悪い」で4歳では5%水準で，「正しい—まちがっている」で4歳では5%水準で，「はやい—おそい」で4歳では5%水準で有意差が認められる。

Fig. 18 ①～②から有意差は認められない。

Fig. 19 ①～⑥から「明るい—暗い」において，小1で1%水準で，小6で10%水準で，「強い—弱い」において，小2，小4，小5，小6で1%水準で，「小さい—大きい」において，小5で5%水準で，「すき—きらい」において，小2，小5で5%水準で，「りこうな—りこうでない」において，小4で10%水準で，小5，小6で1%水準で，「よい—悪い」において，小3で5%水準で，

小6で1％水準で，「正しい―まちがった」において，小2，小6で1％水準で，小3で5％水準で，「はやい―おそい」において，小2で1％水準で，小6で5％水準で，「やわらかい―かたい」において，小3，小6で10％水準で，小4で5％水準で，「かわいそう―かわいそうでない」において，小2，小4で10％水準で，有意差が認められる。

Fig. 20 ①～⑥から，「明るい―暗い」において，小5で10％水準で，「おもしろい―つまらない」において，小4で1％水準で，「小さい―大きい」において，小4で10％水準で，「はやい―おそい」において，小3で5％水準で，有意差が認められる。

Fig. 21 ①～⑥から，「きれい―きたない」において，小4，小5で5％水準で，有意差が認められる。

「のんちゃんのイメージ」について，4歳児で各条件に共通して強いイメージは「やさしい」ということで，各条件に特徴的なイメージは，I群であまり強いイメージは見られず，II群でイメージを強くとらえており，「明るい，おもしろい，おりこう，よい，正しい，はやい」，III群でもあまり強いイメージは見られず，IV群で「おりこう」ととらえている。「よい―悪い」「正しい―まちがっている」「はやい―おそい」の3尺度で5％水準で条件間に有意差がみられる。「よい―悪い」でII，IV群が比較的よいイメージを持っており，I，III群では，教示した話の中に「みんなが中で卵を食べているのに，のんちゃんだけが卵をきらいだといって食べない場面があって，のんちゃんがあまり良くないイメージを作った原因なのかもしれない。「正しい―まちがっている」でも同様のことがいえる。「「はやい―おそい」ではI，III，IV群が「ふつう」のイメージを持っており，II群のみが「はやい」というイメージを強く持っている。5歳児で各条件に共通してイメージを強くとらえており，「おもしろい，すき，やさしい，おりこう，よい」である。I群であまり強いイメージは見られず，II群で「明るい」，III群で「明るい，弱い」，IV群で「明るい，弱い，やわらかい」ととらえている。4歳児では，特に「よい，悪い」のように，話の中に具体的場面が表れているイメージについては教示の影響がある。5歳児では条件ごとの教示に関係なく，ほとんど全員が比較的よいイメージを持っている。

「絵のイメージ」は，4，5歳児のどの尺度でも条件間に有意差は見られず，全体的によいイメージととらえている。II，III，IV群において，11枚の絵の中で一番好まれたのは，4，5歳児とも，①「のんちゃんの家族4人がテーブルを囲んで朝ごはんを食べている絵で，絵全体がにぎやかである」③「のんちゃんが学校に出かけるところで，まわりには花が咲いており，とても楽しそうな絵である」。その点，教示内容はあまり影響なかったのかもしれない。

小学生の登場者のイメージテストで①「まけうさぎ」は1年生でI群は「暗い」イメージ，II，III，IV群で「明るい」イメージが強い。そこで，「明るい―暗い」の尺度で1％水準で有意差がみられる。これは，II，III，IV群で，まけうさぎがおおかみをやっつける絵が提示され，I群ではかめとの競争に負けた絵が提示されているだけで，その続きの作話内容もうさぎは泣きながら帰っていったという事柄に止まっているために，「暗い」イメージが強くなった。II群で「強い，りこうな」，III群で「強い，おもしろい，すき，やさしい，よい」，IV群で「強い，大きい」ととらえ，各条件に共通して強いイメージは特に見られない。2年生で「強い―弱い」「正しい―まちがった」「はやい―おそい」の尺度で1％水準で，「すき―きらい」の尺度で5％水準で有意差が見られる。これは「弱い」「まちがった」「おそい」「きらい」という悪いイメージがI群で強く見られ，他の群で「強い」「正しい」「はやい」「すき」という良いイメージが持たれたためである。II群で「やさしい，かわいそう」，III群で「やさしい」で，共通したイメージは特に見られない。

3年生で「よい—悪い」と「正しい—まちがった」の尺度で5％水準で有意差がみられる。Ⅰ群で他の群より悪いイメージ，Ⅳ群でⅡ，Ⅲ群より「まちがった」イメージが強い。Ⅱ群で「やさしい，やわらかい」，Ⅲ群で「やさしい」，Ⅳ群で強いイメージは見られない。又，共通イメージは見られない。4年生で各条件に共通したイメージとして「やさしい」があげられ，「強い—弱い」の尺度で1％水準で，「やわらかい—かたい」の尺度で5％水準で有意差がみられる。これは，Ⅰ群のみが「弱い」「かたい」ととらえている。Ⅱ群で「よい」という強いイメージがでている。5年生で「強い—弱い」「りこうな—りこうでない」の尺度で1％水準で「小さい—大きい」と「すき—きらい」の尺度で5％水準で有意差がみられる。「強い—弱い」「りこうな—りこうでない」「すき—きらい」ではⅠ群のみが「弱い」「りこうでない」「きらい」ととらえている。各条件で特徴的なイメージ，共通して強いイメージがみられるのは，Ⅰ，Ⅲ群が「小さい」，Ⅱ，Ⅳ群が「大きい」ととらえているのはⅠ，Ⅲ群で，うさぎがかめとの競争に負ける場面がお話としてはっきりと提示されているのに対し，Ⅱ，Ⅳ群では，それがないために，競走に負けるような小さなうさぎというイメージがⅡ，Ⅳ群よりも強くイメージされたためである。6年生では「強い—弱い」「りこうな—りこうでない」「よい—悪い」「正しい—まちがった」の4つの尺度で1％水準で，「はやい—おそい」の尺度で5％水準で有意差がみられる。これはすべて「弱い」「りこうでない」「悪い」「まちがった」「おそい」という良くないイメージがⅠ群にのみ強く表れており，他の群はほぼ共通して良いイメージを持っているからである。以上，各年齢に共通していえることは，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ群が全体的に良いイメージをもっているのに，Ⅰ群のみが比較的良くないイメージをもっている。これはⅠ群で絵が最初の3枚だけ提示され，うさぎがかめに負ける場面だけが示されており，その後，うさぎがおおかみをやっつける場面が提示されていないからである。比較的共通したイメージとして，うさぎが本来もっているイメージから「やさしい」がある。

②「おおかみ」のイメージは1年生で各条件に共通して強いイメージは「大きい」である。Ⅱ群で「きらい，こわい，りこうでない，悪い，まちがった」，Ⅲ群で「りこうでない」，Ⅵ群で強いイメージは見られない。2年生でⅡ群で強いイメージは見られず，Ⅲ群で「こわい，悪い」，Ⅳ群で「暗い，つまらない，大きい，きらい，こわい，りこうでない」ととらえられ，共通して強いイメージは特に見られない。3年生で「はやい—おそい」の尺度で5％水準で有意差がみられ，共通して比較的強いイメージは「こわい」があげられる。各条件で特徴的なイメージとして，Ⅱ群で「つまらない，大きい，りこうでない，悪い，おそい」，Ⅲ群で「りこうでない，悪い，まちがった，かたい」，Ⅳ群で「大きい，きらい，かわいそうでない」ととらえている。4年生で「おもしろい—つまらない」の尺度で1％水準で有意差がみられる。これは，Ⅳ群で大体のあらすじを教示しており，おおかみがうさぎにやっつけられることがある程度予想できるので他の群より比較的「つまらない」というイメージが強くなったようである。各条件で特徴的なイメージはⅡ群「大きい，こわい，かたい，かわいそうでない」Ⅲ群で「暗い」Ⅳ群で「大きい，きらい，こわい，まちがった，かたい，かわいそうでない」と強いイメージでとらえている。共通して強いイメージは「りこうでない，悪い」である。5年生で各条件に共通イメージは「大きい，りこうでない，悪い，まちがった，かわいそうでない，きらい，こわい」で比較的強いイメージとしてとらえている。Ⅱ群で「暗い，かたい」Ⅲ群で「おそい，かたい」が特徴的なイメージである。6年生で共通して強いイメージは「大きい，りこうでない」Ⅱ群では「悪い，まちがった」Ⅲ群では「かわいそうでない」Ⅳ群では「悪い，まちがった」ととらえている。教示にほとんど関係なくおおかみは悪者である固定観念が，ある程度影響しているのかもしれない。

以上，まけうさぎのイメージは教示よりも物語を表す絵の影響，おおかみのイメージは教示が絵ほどに影響を与えなかったのであろう。

絵のイメージは，4，5年生で「きれい―きたない」の尺度で5％水準で有意差がみられるが，各年齢，各尺度ともにすべて「ふつう」か「ふつう」よりよいイメージとしてとらえ，教示内容の影響は少ない。4年生は3枚の絵の提示だけのⅠ群でも，他の群と同様に「ふつう」よりも良いというイメージをもっており，3枚だけでも十分なのかもしれないが，1，2，5年生は他の群より「ふつう」に近いイメージにとらえていることから，13枚提示の方が，絵に対して明確なイメージをもつことができる。

以上，登場者のイメージのとらえ方は，年齢の高まりと共に明確にあらわれ，各条件によって異なっている。したがって，仮説③は支持される。

Table 1に小学生の各年齢におけるⅠ群の作話内容の特徴を示す。

〈Table 1〉各年齢におけるⅠ群の作話内容の特徴

年齢	作話内容	人数	(%)
1年生	○うさぎは泣きながら山に帰り，かめはうれしそうに帰っていった。	4	57.1
	○うさぎはくやしがりながら村に帰った。	2	28.6
	○うさぎはまた昼寝をした。	1	14.3
2年生	○うさぎは村に帰って反省した。	2	28.6
	○うさぎとかめは仲直りして，他の動物たちとも仲よしになった。	2	28.6
	○うさぎはみんなに笑われ，かめはほめられた。	2	28.6
	○うさぎは死んでしまった。	1	14.3
3年生	○うさぎは村に帰って負けた話をしてみんなに笑われた。	4	44.4
	○うさぎはくやしがり，今度やったら絶対に勝つぞと思い，走る練習をした。	3	33.3
	○うさぎはかめともう一度競走してまたいねむりをしてしまった。	1	11.1
	○うさぎとかめは仲直りして，仲よしになった。	1	11.1
4年生	○うさぎは家に帰って反省し，最後まで一生懸命やろうと思うようになった。	4	44.4
	○うさぎは，村のみんなにばかにされ，くやしかった。	3	33.3
	○うさぎはかめともう一度競争してまたいねむりをして負けてしまった。	2	22.2
5年生	○うさぎはかめともう一度競争して，また負けてしまい，もう二度と競争しなくなった。	3	33.3
	○うさぎは村に帰ってみんなにバカにされた。	3	33.3
	○うさぎはかめをばかにしたのがいけなかったと反省した。	1	11.1
	○うさぎはかめともう一度競争して勝ち，いばるようになった。	1	11.1
	○かめは自信をつけ，いろいろな動物と競争しようと誘うようになり，うさぎはいらだった。	1	11.1
6年生	○うさぎはかめともう一度競争して，また負けてしまった。	4	57.1
	○うさぎはかめともう一度競争して，その後かめと仲直りした。	2	28.6
	○かめが，うさぎと他の動物たちを仲直りさせるが，うさぎは旅に出てしまった。	1	14.3

幼児のⅠ群においては，3枚目の絵はのんちゃんが学校へ出かけていく場面の絵であるために，自分の幼稚園での生活を話すものが多いことから，まだ自己中心的な考え方をしているのであろう。幼児のⅡ，Ⅲ，Ⅳ群では，時空間の系列化ができるようになる以前の段階で，場面の絵の説明に終わってしまって，全体としてまとまりの話にならない。

Table 2 に小学生の各年齢における「うさぎが山を登っておおかみの所へ行く」場面での作話内容の特徴を示す。

Table 3 に小学生の各年齢における「うさぎがおおかみを後ろむかせる」場面での作話内容の特徴を示す。

〈Table 2〉各年齢における「うさぎが山を登っておおかみの所へ行く」場面での作話内容の特徴

年齢	作話内容	人数	(%)
1年生	○見つけた紙を見て，山に登ってみる。	12	50.0
	○おおかみをやっつけるために山に登る。	6	25.0
	○みんなでてっぺんまで山登り競争をする。	3	12.5
	○かめが動物運動会に出るという手紙が来たので行ってみる。	1	4.2
	○その他	2	8.3
2年生	○山のてっぺんに登ってみる。	11	57.9
	○山の上のおおかみをやっつけに行く。	5	26.3
	○おおかみからの手紙が来たので，ぼくが行く。	2	10.5
	○その他	1	5.3
3年生	○山のてっぺんに登ってみる。	8	32.0
	○おおかみから「うさぎたちを食べに行く」という手紙が来たので，ぼくがやっつけてやることにした。	8	32.0
	○みんなに山のおおかみをやっつけたら遊んでやると言われて，行くことにした。	4	16.0
	○１年前におおかみに殺されたおとうさんのかたきをうつ。	1	4.0
	○月にいるうさぎを見に山へ行く。	1	4.0
	○山に食べ物があるというので行ってみる。	1	4.0
	○その他	2	8.0
4年生	○山のてっぺんに登ってみる。	12	46.2
	○山のおおかみがねらっているので，ぼくがみんなのために戦う。	9	34.6
	○おおかみをやっつけたら仲間に入れてもらえるので山に行く。	3	11.5
	○山の上に行ってお月さまをとってこよう。	1	3.8
	○かめからもう一度競争しようという手紙が来たので行ってみると，実はそれはおおかみからの手紙だった。	1	3.8
5年生	○山のおおかみがねらっているので，ぼくがみんなのために戦う。	6	27.3
	○山のてっぺんに登ってみる。	3	13.6
	○おおかみをやっつけたら仲間に入れてもらえるので山に行く。	3	13.6
	○おおかみをやっつけたら王様になれるので行く。	3	13.6
	○おおかみをやっつけたら賞金がもらえるので行く。	3	13.6
	○おおかみをやっつけよう。	2	9.1
	○みんなで山登り競争をしよう。	1	4.5
	○食べ物をさがしに山を登ってみる。	1	4.5
6年生	○山のおおかみから手紙が来て村がねらわれているので，ぼくがみんなのためにおおかみと戦う。	11	52.4
	○うさぎが一匹おおかみにさらわれたので助けに行く。	3	14.3
	○山のてっぺんに登ってみる。	3	14.3
	○おおかみをやっつけたら賞金がもらえるので，みんなをあっと言わせるために山に行く。	2	9.5
	○かめとの競争で山を登らなくてはならない。	1	4.8
	○その他	1	4.8

〈Table 3〉各年齢における「うさぎがおおかみを後ろむかせる」場面での作話内容の特徴

年齢	作話内容	人数	(%)
1年生	○おおかみが後ろをむいた。	5	20.8
	○うさぎはおおかみの後ろに回った。	5	20.8
	○「おおかみさん，きれいなお月さまですよ。月にもうさぎがいるんですよ。見てください。」	2	8.3
	○「おおかみさん，ちょっとむこうの景色を見てください。」	2	8.3
	○「おおかみさん，飛行機が飛んでるよ。」	1	4.2
	○「おおかみさん，どちらが大きな声で鳴けるかやってみましょう。」	1	4.2
	○「もっと高い所へ行きましょう。」	1	4.2
	○おおかみは仲間を呼ぶためにほえた。	1	4.2
	○その他	6	25.0
2年生	○おおかみが後ろをむいた。	5	26.3
	○うさぎはおおかみの後ろに回った。	4	21.1
	○「おおかみさん，食べてもいいからちょっとむこうをむいてください。」	2	10.5
	○おおかみは仲間を呼ぶためにほえた。	2	10.5
	○「おおかみさん，一つ言うことを聞いてから食べてよ。」	1	5.3
	○その他	5	26.3
3年生	○おおかみが後ろをむいて，ほえ始めた。	9	36.0
	○うさぎはおおかみの後ろに回った。	3	12.0
	○「おおかみさん，後ろにぼくより大きいうさぎがいるよ。」	3	12.0
	○「おおかみさん，がけの下においしい木の実があるよ。」	1	4.0
	○「おおかみさん，あなたの美しい声を聞かせてください。」	1	4.0
	○「私はおいしいからあとにして，それより先にうさぎのたくさんいるところを教えてあげます。あそこですよ。」	1	4.0
	○「あっ，山が動いている！」	1	4.0
	○うさぎはおならをしておおかみを油断させた。	1	4.0
	○その他	5	20.0
4年生	○おおかみが後ろをむいて，ほえ始めた。	6	23.1
	○うさぎは急いでおおかみの後ろに回った。	4	15.4
	○「おおかみさん，食べる前にほえ方を見せてください。」	5	19.2
	○「おおかみさん，ちょっと後ろを見て。何かいるよ。」	4	15.4
	○「おおかみさん，むこうにもっとおいしそうなうさぎがいますよ。」	3	11.5
	○「ぼくは夜になると大きくなってもっとおいしくなるよ。だからそれまで後ろをむいてちょっと待っていてください。」	1	3.8
	○「あなたのお手伝いをしましょう。」	1	3.8
	○「食べたいんだったら，くるくるっと回ってみてよ。」	1	3.8
	○その他	1	3.8
5年生	○おおかみが後ろをむいて，ほえ始めた。	6	27.3
	○「おおかみさん，ちょっとの間後ろをむいてください。」	3	13.6
	○うさぎは急いでおおかみの後ろに回った。	2	9.1
	○「おおかみさん，食べる前にほえ方を見せてください。」	2	9.1
	○「ぼくよりおいしそうなうさぎがむこうにいますよ。」	2	9.1
	○「あっ，あそこに何かいますよ。」	2	9.1
	○「むこうの山にくだものの木がたくさんありますよ。」	1	4.5
	○「ぼくはあなたの仲間ですよ。」	1	4.5
	○おおかみは仲間を呼ぶためにほえた。	1	4.5
	○その他	2	9.1
6年生	○おおかみが後ろをむいて，ほえ始めた。	8	38.1
	○「ぼくより大きくまるまる太ったおいしそうなうさぎがむこうにいますよ。」	5	23.8
	○「むこうをむいて，どのくらい声が出るか，ほえてみてください。あなたのほえる姿を見せてくれたら，食べられてもいいです。」	4	19.0
	○「ぼくはあなたの仲間ですよ。」	1	4.8
	○「後ろを見てください。きれいですよ。」	1	4.8
	○うさぎは気づかれないようにおおかみの後ろに回った。	1	4.8
	○その他。	1	4.8

V 結　　論

作話課題，心情，イメージのとらえ方のいずれについても教示内容と共に絵の有無が作用している。

参考文献

佐藤公代　1986　思考の発達に関する研究　―文章の相違による物語の理解やイメージの比較について―　愛媛大学教育学部紀要　第Ⅰ部　教育科学　第32巻　21―45

佐藤公代　1988　残酷な場面を中心にした原話と改話の物語理解とイメージに関する比較研究　愛媛大学教育学部紀要　第Ⅰ部　教育科学　第34巻　27―57

謝　辞

本研究の実験にあたり，愛媛大学教育学部学生，閑千春氏と教育心理学専修生3，4回生，さらに，愛媛幼稚園の園長先生はじめ諸先生方，園児の皆様，小田小学校の校長先生はじめ諸先生方，小学1年生から6年生までの皆様（順不同）に多大な協力を得たことに対し，謝意を申し上げます。

付表1　幼児用心情テスト

○のんちゃんの気持ちを考えてみましょう。

―Ⅰ～Ⅳ群―

① 朝，みんなが卵を食べている時に，ジャムつきパンを食べているのんちゃんは，どんな気持ちだったでしょう。
（うれしかったですか。つまらなかったですか。おいしいと思ったのですか。）

② 机の上に卵が置いてあるのを見て，のんちゃんはどう思ったでしょう。
（いやだなと思ったのですか。それともおいしそうだと思ったのですか。）

③ 本やお弁当箱やなわとびのなわを持って出かける時の，のんちゃんはどんなことを考えていたのでしょう。
（学校のことですか。それともお弁当のことですか。）

―Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ群―

④ どうしてのんちゃんはジャムつきパンばかり食べていたのでしょう。
（好きだからですか。それともそれしかなかったからですか。）

⑤ どうしてのんちゃんはジャムとパンを見て泣き出したのでしょう。
（悲しかったからですか。それともおなかが痛かったからですか。）

⑥ スパゲティを食べた時，のんちゃんはどんな気持ちだったでしょう。
（うれしかったのでしょうか。よかったと思ったのですか。つまらないと思ったのですか。）

付表2　小学生用心情テスト

―Ⅰ群―　○うさぎの気持ちを考えてみましょう。

① 小山の上でばんざいをしているかめを見た時，うさぎはどんな気持ちだったでしょう。

② さるやしかやくまにばかにされた時，うさぎはどんな気持ちだったでしょう。

③ うさぎ村に帰っていく時のうさぎはどんな気持ちだったでしょう。

―Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ群―　○うさぎやおおかみの気持ちを考えてみましょう。

①～③　Ⅰ群と同じ

④ おおかみの所へ行こうとするうさぎはどんな気持ちだったでしょう。

⑤ うさぎがやって来た時，おおかみはどんな気持ちだったでしょう。

⑥ おおかみをやっつけた時，うさぎはどんな気持ちだったでしょう。

⑦ 山を落ちていくおおかみはどんな気持ちだったでしょう。

付表3　幼児用のⅠ群，Ⅲ群へのお話

① 朝ごはんの時間でした。おとうさんとおかあさんと妹のななは，ゆで卵を食べていました。のんはジャムをつけたパンを食べていました。「これはおいしい卵だねえ。」とおとうさんは言いました。「ほんとにそうねえ。」とおかあさんは言いました。のんは卵を食べません。卵を食べるかわりに小さな声で卵のうたを歌いました。

卵はきらい。大きらい。卵はさわるとブルンブルンするし，中はヌルヌル。卵はきらい。大きらい。あたしは

卵なんか食べなくたってちっともかまわない。
そして，のんはもう一枚のパンにジャムをつけました。

② 「こんなにおいしい卵があるのに，どうしてジャムつきパンばかり食べるんだい？」とおとうさんは言いました。「だって，ジャムつきパンはスプーンにのせても，卵みたいにこぼれたりしないから」とのんは言いました。「じゃあ，めだま焼はどうだい？」とおとうさんは言いました。「めだま焼は，お皿の上から変な目でじっとにらんでるみたいでいやなんだもん。」とのんは言いました。

③ 「さ，もう学校へ行く時間ですよ。」とおかあさんが言いました。のんは，本とお弁当箱となわとびのなわを持つと，おとうさんとおかあさんに「行ってきます」と言って学校に行きました。

付表4　小学生用のⅠ群，Ⅲ群へのお話

① いやもうひどいもんさ。かけっこじゃ一番はやいはずのうさぎが，のたりのたりのかめに負けてしまって。それも，あんまりかめがおそいものだから，とちゅうでいねむりのまねをしていたら……そのうち，ほんとにねむっちまったんだ……。

② あっ！と気がついて目がさめた時はもうおそい。小山の上でばんざいしているかめのすがたが……。

③ あんまりねすぎたうさぎさん
さっきのじまんはどうしたの
さるやしかやくまなんかが，どっと手をたたいてはやしてね。
まけうさぎはこそこそとうさぎ村ににげかえった……。